

『利根川・江戸川において今後20～30年間で目指す安全の水準についての考え方ー「利根川・江戸川河川整備計画」における治水対策に係る目標流量についてー』に関する意見

①氏名	[REDACTED]		
②住所	(都県名) 長野県	(市区町村名) 長野市	[REDACTED]
③電話番号又はメールアドレス	[REDACTED]		
④年代	60歳以上	⑤性別	男性
⑥ご意見			
利根川の治水対策上の重要性から目標流量の年超過確率を 1/70～1/80 に決定することに異存はない。ただし目標流量 17000m³/s は治水安全度 1/200 における基本高水流量 22000m³/s より決定されていて基本高水流量に依存している。 利根川の基本高水流量は「総合確率法」によって決定されているが、一定流量における雨量群を対象に計算されているので過大になっている。一定雨量におけるピーク流量群を対象に計算すると、基本高水流量は減少することを確認している。したがって目標流量も減少する。基本高水流量の計算は、雨量から流量を計算する雨量確率手法を採用している原点に立ち戻り、一定雨量におけるピーク流量群を対象に流量の年超過確率 1/200 のピーク流量から基本高水流量を決定すべきである。理論的根拠は「改訂新版 建設省河川砂防技術基準(案) 同解説 調査編」64 頁の確率年および確率水文量に記載されている。 日本学術会議流出モデル・基本高水評価検討等分科会がエンドースした「総合確率法」は（雨量確率 X 雨量の超過確率）より同時確率を求めているが、雨量確率と流量確率が 1:1 に対応する仮定をおいているので不適切である。 また関東地方整備局が実際採用した一定流量における雨量群の年超過確率の平均値から流量確率 1/200 におけるピーク流量を決定する方法でなく、計画雨量 336mm/3 日におけるピーク流量群の平均値から流量の年超過確率 1/200 におけるピーク流量を決定すべきである。 そのような再計算を実施したら、治水安全度 1/200 における基本高水流量は減少し、したがって流量の年超過確率が 1/70～1/80 の目標流量も減少するはずであり、その目標流量に基づいて河川整備計画を策定するのが常道である。 以上			

『利根川・江戸川において今後20～30年間で目指す安全の水準についての考え方ー「利根川・江戸川河川整備計画」における治水対策に係る目標流量についてー』に関する意見

①氏名	[REDACTED]		
②住所	(都県名) 群馬県	(市区町村名) 前橋市	[REDACTED]
③電話番号又はメールアドレス	[REDACTED]		
④年代	20歳未満・20代・30代・40代・○50代・60歳以上	⑤性別	男性・○女性
⑥ご意見 (意見ごとにできるだけ200字以内で記載して下さい) カスリーン台風での現実の被害、3,11の大災害、昨今の地球規模での気候変動や各地での災害から、利根川の河川整備計画が20～30年間の計画としても安全の水準を低く設定するのではなく、「いつ起きるのか分からないのが災害」という基本理念のもとに安全水準を設定すべきと考えます。従って目指す治水安全度の目標水量を資料にある最低でも17,000m³/秒が望ましいと考えます。			

『利根川・江戸川において今後20～30年間で目指す安全の水準についての考え方ー「利根川・江戸川河川整備計画」における治水対策に係る目標流量についてー』に関する意見（その2）

①氏名	[REDACTED]		
②住所	(都県名) 長野県	(市区町村名) 長野市	[REDACTED]
③電話番号又はメールアドレス	[REDACTED]		
④年代	60歳以上	⑤性別	男性
⑥ご意見（その2）			
目標流量の治水安全度 1/70～1/80 に異存はないとしても、目標流量 17000m³/s は過大であり、その原因は治水安全度 1/200 における基本高水流量 22000m³/s が過大に決定されているからである。 過大に決定されている原因は、「総合確率法」を正しく適用していないことにある。関東地方整備局で採用されている「総合確率法」には、利根川、那珂川、久慈川で採用されている一定流量における雨量の年超過確率の平均値から基本高水流量を決定する方法と、相模川で採用されている（雨量確率 X 雨量の超過確率）から同時確率を求めて基本高水流量を決定する方法がある。後者の方法は日本学術会議流出モデル・基本高水評価検討等分科会で学術的に裏付けられている。 しかし後者の方法は雨量確率と流量確率が 1:1 に対応する仮定をおいているので、不適切であることを別のパブリックコメントで明らかにしている。利根川では一定流量における雨量の年超過確率の平均値から基本高水流量を決定しているが、その方法も不適切である。この計算においては、雨量の年超過確率つまり雨量確率でなく雨量の超過確率を採用すべきであり、雨量の年超過確率の平均値から基本高水流量に決定すべきではない。その理論的根拠は「改訂新版 建設省砂防技術基準（案）同解説 調査編」の 64 頁に記載の確率年および確率水文量の計算式である。この式においては水文量の超過確率が対象になっていて水文量の年超過確率（具体的には雨量確率や流量確率）は対象になっていない。 「総合確率法」を正しく適用しないと、治水安全度に見合う適切な基本高水流量が決定できない。関東地方整備局が採用した（雨量確率 X 雨量の超過確率）から同時確率を計算する方法と雨量の年超過確率から計算する方法はいずれも不適切である。実際に利根川で採用された一定流量における雨量の年超過確率を対象にする方法ではなく、（雨量確率 X ピーク流量の超過確率）から同時確率を求める方法または一定雨量におけるピーク流量群の平均値から基本高水流量を求める方法を実施し、治水安全度 1/200 に見合う適切な基本高水流量を決定すべきである。 以上			

『利根川・江戸川において今後20～30年間で目指す安全の水準についての考え方ー「利根川・江戸川河川整備計画」における治水対策に係る目標流量についてー』に関する意見

①氏名			
②住所	(都県名) 群馬県	(市区町村名) 高崎市	
③電話番号又はメールアドレス			
④年代	20歳未満・20代・30代・40代・50代・60歳以上	⑤性別	男性・女性
⑥ご意見 (意見ごとにできるだけ200字以内で記載して下さい)			
(意見1：整備計画で目指す治水安全度の水準について) 全国の直轄管理区間の整備計画目標の範囲の中で、首都圏を流域に持つ利根川が高い方の水準になるのは当然だと考えます。むしろ、利根川の洪水による南関東域の被害を想定すれば、一段高い水準を設定しても良いと考えます。			
(意見2：ダムと河道の流量配分) 昭和24年に策定された利根川改修改訂計画では、八斗島地点の基本高水流量を17,000m³/sとし、上流ダム群で3,000m³/sを調節して、残りの14,000m³/sを下流河道で処理することとしていました。仮にこの配分を整備目標としても、上流ダム群(ハッ場ダム完成まで)の配置バランスと八斗島地点から渡良瀬川合流点までの河道による洪水処理には課題があると考えます。			
(意見3：利根川への洪水流入と洪水調節施設配置の課題) 利根川の上中流域には奥利根、吾妻川、烏・神流川、渡良瀬川、鬼怒川の5つの大きな流域があります。奥利根と吾妻川は、昭和30年代から整備されてきたダム群やハッ場ダムの完成によって、概ねダム配置が完成します。また、渡良瀬川には利根川との合流点に渡良瀬遊水地があり、鬼怒川にも田中、菅生、稲戸井の3つ遊水地あって洪水を制御できます。 しかし、比較的洪水が発生しやすい烏・神流川流域には下久保ダムがあるだけです。また、上流の山地から流入する洪水が全て流れ込む八斗島地点から渡良瀬川合流点までの区間には、洪水を制御する施設がありません。			
(意見4：利根川中流域の洪水調節施設配置) 烏・神流川の流域面積は約1,800km²ですが、このうち下久保ダムで制御できる流域面積は約320km²にすぎません。このような状況の中で上流域に計画規模を超える降雨があり、その洪水が八斗島地点に流入すれば、これより下流の河道には大きい危険があると考えます。 上流域(特に烏川)にダムが造れない現状であれば、首都圏の南関東域を超過洪水から守るためにも、この区間には江戸時代の中条堤遊水地のような役割を持った遊水地(沿岸の水田を締め切って地役権設定による等)を、早期に整備する必要があると考えます。			

『利根川・江戸川において今後20～30年間で目指す安全の水準についての考え方ー「利根川・江戸川河川整備計画」における治水対策に係る目標流量についてー』に関する意見

①氏名	[REDACTED]		
②住所	(都県名) 東京都	(市区町村名) 中央区	
③電話番号又はメールアドレス	[REDACTED]		
④年代	30代	⑤性別	女性
⑥意見 (意見ごとにできるだけ200字以内で記載して下さい)			
◇意見1 住民に治水の為に安全な目標流量への意見を求められても、是非を示すことはとても困難だと思います。しかし、利根川流域に被害が大きければ大きいほど、自分たちの生活はもとより日本国全体への影響が大きいことは明白であり、より高い確率で守るべき土地であると分かります。 いずれにせよ流域の住民や企業等が求めているのは「安全」でしかありません。水が十分に供給され、必要でない水は確実に海へと流れることです。 より早く確かに実現できる範囲で、でき得る限り多くの水を、安全に海へ流すことを目指していただきたいと切に思います。 ◇意見2 治水安全度の17,000m³がダムを造るための数字かどうかは本質の話ではあり得ません。賛成でも反対でもない住民にとってはよく分からない数字でしかありません。今後20年から30年間で確実に対応できる治水対策の規模として最大の数値が17,000m³ならば問題ないと認識しています。 リスクマネジメントは最悪の事態を予想すべきものです。防災対策は、そこから自然環境や景観などを割り引くものだと思いますが、絶対的基準は生命の安全ですので間違いのないようお願いいたします。 もし、その為のより確かな最大有効手段がコストや管理等の面からでもダムであるならば、ダムは必要施設だと考えます。 ◇意見3 今回の計画は今後20年から30年間という期間を区切った目標とものことですが、確実に実行する目標の単単位として設定することは必要なことです。 更に河川整備基本方針の全体の流れの中で、その先の30年から50年、50年から70年先…についての目標と手段までも、ある程度ヴィジョンを示すことも必要だと思います。 着実に防災対策や環境整備を行っていくためにも、余すところなく課題を列記し、強い意志のもとに優先順位を付け、その時の技術で最も適した対策を講じていただきたいと思います。そして将来の川の姿、土地の風景を描いていく夢のあるものにしていただけたら素敵だと思います。			

◇意見 4

あるダム建設問題を抱えた地域では建設反対派の声もしくは力が大変強く、例え建設に賛成していても反対派が怖くて表立って賛成だと発言できないという話を聞いたことがあります。

これこそ、行政が公平性と正義感を持って声を聞きあげ、毅然と対応していくべきではないでしょうか。思い込みと強い使命感を履き違えてはなりません。もう一度国家及び国家事業と自治体の使命について見直さなければ、国力の衰退は免れません。中央集権と国家事業は同一ではないと思います。政府も大臣も行政も、誇りと責任のもとに役割を果たしていきましょう。

◇意見 5

治水のための手段を論じる中で、ダム建設の反対に執着している方々の意見には甚だ疑問を感じています。

そもそもダム建設は安全面において要か不要かの問題なので、感情的な意見は、ダム建設地の方々は勿論、今まで被害に苦しんできた流域の人たちに対しても非常に失礼なことだと感じています。

◇意見 6

堤防を強化すれば洪水を防げるという意見をよく耳にするのですが、堤防は脆弱なところがあれば、そこから水が溢れ出てしまいます。しかも堤防は土です。土は偉大ですが恐ろしさも計り知れないもので、工事については試算した以上の費用がかかることは必定だと思います。

右岸と左岸で延長 600 km 余りに及ぶ利根川流域において、必要な堤防を完全なものに造り上げることは困難で、効果を得るための時間がかかり過ぎると思います。

◇意見 7

ダム建設が税金の無駄だという声をよく耳にしますが、そうは考えません。

もしも首都圏で大洪水が発生して甚大な被害となれば、今まで投資してきた税金が無駄になり、人々の命も財産も泥水に浸かり多くを失うことにもなりかねません。その後の復旧のため、防災のための税金が莫大にかかることになる「金額」はどのようなのでしょうか。

しかし、もっと大切なことがあります。

私たち日本人は「安全」や「無事」には、金額に換算できないものが大きく含まれていることを痛切に学んだばかりです。天災はいつ、どれほどの規模で発生するかは分かりませんし、予想できたところで万全な対応は難しいものです。

数値に依存し過ぎて慢心すること、国民一人一人が災害について身近な意識を持つような教育を、強力に国家的に推進しなければならないと思います。

「利根川・江戸川河川整備計画」事務局様

(別添：意見提出様式)

『利根川・江戸川において今後20～30年間で目指す安全の水準についての考え方ー「利根川・江戸川河川整備計画」における治水対策に係る目標流量についてー』に関する意見

①氏名			
②住所	(都県名) 茨城県	(市区町村名) 取手市	
③電話番号又はメールアドレス			
④年代	20歳未満・20代・30代・40代・50代・60歳以上	⑤性別	男性・女性
⑥ご意見 (意見ごとにできるだけ200字以内で記載して下さい)			
河川整備計画は、治水、利水、環境等、総合的に検討すべきで、今回のように流量だけで意見を求めることは納得できません。それに、過去60年間、利根川の洪水は10000 m³をこえたものではなく、目標流量17000 m³は過大であり、反対します。			

{ / }

『利根川・江戸川において今後20～30年間で目指す安全の水準についての考え方ー「利根川・江戸川河川整備計画」における治水対策に係る目標流量についてー』に関する意見

①□ 氏名	[REDACTED]		
②住所	(都県名) 埼玉県	(市区町村名) さいたま市西区	
③電話番号又はメールアドレス	[REDACTED]		
④年代	20歳未満・20代・30代・40代・50代・60歳以上	⑤性別	男性・女性
⑥ご意見 (意見ごとにできるだけ200字以内で記載して下さい)			
意見1 利根川の河川整備においては、上下流のバランスと共に利根川と江戸川との分流量のバランスが大切である。整備計画の目標として、本川 14,000m³/s のうち、5,000m³/s を分流量することを目標としている。このためには、江戸川の疎通能力の向上をはじめとして、江戸川分派点や行徳可動堰等の重要工作物の改築が必要である。江戸川への分流量を増大させることは、江戸川的能力増大のみでなく、利根川中流域に建設されている遊水調節池を効果的に機能発揮させるためにも重要である。整備計画期間において、整備が行われることが期待される。			

(別紙: 意見提出様式)

『利根川・江戸川において今後20～30年間で目指す安全の水準についての考え方』『利根川・江戸川河川整備計画』における治水対策に係る目標流量について』に関する意見

①氏名	[REDACTED]		
②住所	(都県名) 東京都	(市区町村名) 北区	
③電話番号又はメールアドレス	[REDACTED]		
④年代	20歳未満・20代・30代・40代・50代・60歳以上	⑤性別	男性・女性

⑥ご意見

(意見ごとにできるだけ200字以内で記載して下さい)

利根川の治水基準値の過去60年間の平均実績が $1000\text{m}^3/\text{秒}$ であるのに $17,000\text{m}^3/\text{秒}$ という非現実的な数値を前提としており、これは、ダムを何とて多く作るためのものと思われる。

税金を浪費せず代替地移転住民の環境整備費用に回して無駄なハッポダムの事業などその工事を止めるべきだ。

『利根川・江戸川において今後20～30年間で目指す安全の水準についての考え方ー「利根川・江戸川河川整備計画」における治水対策に係る目標流量についてー』に関する意見

①氏名			
②住所	(都県名) 栃木	(市区町村名) 野木町	
③電話番号又はメールアドレス			
④年代	20歳未満・20代・30代・40代・50代・60歳以上	⑤性別	男性・女性
⑥ご意見 (意見ごとにできるだけ200字以内で記載して下さい)			
1、利根川・江戸川の河川整備計画における目標を、カスリン台風時の $17,000\text{m}^3/\text{sec}$ に設定されることは、その氾濫域の人口資産の集中度から考えると極めて妥当(適切な判断)であると思います。安全度水準の指標 $1/80$ の表現は一般には解りにくいし、安全度水準のみを数値で示されても唐突感があります。他の大河川の水準との比較が必要でしょう。そこから相対的に利根川・江戸川の安全度水準は、こうあるべきだといって欲しい。 2、現況の安全度水準は、一連区間として $1/30$ 程度としていますが、平均的に見るとそうなるでしょうが、利根川上流、利根川下流、江戸川の現況の安全度水準は相対的に江戸川、利根川上流、利根川下流の順に低くなっていくと思います。河川整備計画の目標も単に安全度を同一水準にするのではなく、利根川上下流・江戸川・左右岸等で目標とする安全度水準を危機管理の考え方から合理的に区別していく考え方が、中期的目標には必要なのではないでしょうか。 治水事業を今日まで営々と進めていますが、公になっていないだけで、その考え方は、脈々と受け継がれてきています。しかし杞憂かもしれませんが、近年そのような治水哲学が希薄になってきているように思います。 河川はインフラの中で最も基幹的なものであるにもかかわらず、人々の意識から遠い存在です。是非このような議論が(公開した場等)広くなされることが、治水を人々の身近なものにしていく、一つのプロセスではないでしょうか。 3、安全度目標水準のみについて、その妥当性をコメントせよと言われても、ほとんどの人は面食らうのではないのでしょうか。やはりその達成のプロセス(シナリオ)とセットで意見募集したほうがよいと思います ・利根川・江戸川の大氾濫は、国家基盤を揺るがすポテンシャルを持ち、淀川・木曽川或いはセーヌ川・テムズ川等外国の河川との比較から、長期的・中期的な治水安全度水準を提示すべきでは ・その安全度達成の概略のシナリオ(概略治水メニュー、費用、期間)の提示 ・超過洪水(河川の器の大きさや質の限界を超過した洪水)に対するハード・ソフト対策のシナリオの提示			

『利根川・江戸川において今後20～30年間で目指す安全の水準についての考え方ー「利根川・江戸川河川整備計画」における治水対策に係る目標流量についてー』に関する意見

①□ 氏名			
②住所	(都県名) 茨城県	(市区町村名) 取手市	
③電話番号又はメールアドレス			
④年代	20歳未満・20代・30代・40代・50代・ <u>60歳以上</u>	⑤性別	<u>男性</u> ・女性
⑥ご意見 (意見ごとにできるだけ200字以内で記載して下さい) 治水安全度 1/70～1/80。目標流量 17,000m³/秒に反対です。2008年に立消えになった河川整備計画案はそれぞれ 1/50、15,000m³ でした。ところが、昨年八ッ場ダムの検証の場に突然冒頭の数値が提出され、八ッ場ダムは継続になりました。しかしこれ等の数値は政策的に承認されていません。今回の意見公募は、“安全のため”という人參をぶらさげ、この数値に民意を与えようという底意は明らかです。計画の全てを開陳して堂々とやりなさい。			

差出人: [REDACTED]
送信日時: 2012年6月16日土曜日 17:04
宛先: tone-plan2@ktr.mlit.go.jp
件名: 「利根川・江戸川河川整備計画」事務局 宛

はじめに、建設構想が古く軟弱地盤なハッ場ダムを建設してはいけません。
現在までに行われてきた、ほ場整備事業、河川改修事業、道路拡幅側溝埋設事業、農業集落排水事業等、昭和の終から平成のはじめにかけて公共土木工事に巨額の税金を投入した、
御蔭で私の住む赤城山中の田舎ですら、
雨の日でも長靴を履いて泥水の砂利道を歩くことは無くなった。また、
八斗島近くの会社に努めていた頃も、利根川が川幅いっぱいになるのを見たことがない。

そして、江戸川には有名な地下神殿（首都圏外郭放水路）が平成18年に完成して成果をあげている。
今後、必要な治水公共事業を考えるなら、インフラの老朽対策が重要である。
終わりに、ハッ場ダム建設を推進する群馬県知事と国会議員の大政翼賛会的な
自民党（癒着）建設業界の集票欲しさの利権集団に呆れている。

(別添：意見提出様式)

『利根川・江戸川において今後20～30年間で目指す安全の水準についての考え方―利根川・江戸川河川整備計画』における治水対策に係る目標流量について』に関する意見

①氏名			
②住所	(都県名) 茨城県	(市区町村名) 取手市	
③電話番号又はメールアドレス			
④年代	20歳未満・20代・30代・40代・50代・60歳以上	⑤性別	男性・女性
⑥ご意見 (意見ごとにできるだけ200字以内で記載して下さい)			
意見募集の前にやばいとかあるんじゃないか？ 反対です。 この基本高水22000m³の根拠をくると変えたりも、 その説明も悪い。目標流量17000m³で意見とあるの おかしいと思います。			

[/]

『利根川・江戸川において今後20～30年間で目指す安全の水準についての考え方―「利根川・江戸川河川整備計画」における治水対策に係る目標流量について―』に関する意見

①氏名	[REDACTED]		
②住所	(都県名) 神奈川県	(市区町村名)	横浜市 [REDACTED]
③電話番号又はメールアドレス	[REDACTED]		
④年代	20歳未満・20代・30代・40代・50代・ ☒ 60歳以上	⑤性別	☒ 男性・女性
⑥ご意見 (意見ごとにできるだけ200字以内で記載して下さい)			
別紙添付			

「利根川・江戸川河川整備計画」における治水対策に係る目標流量に関する意見募集への意見提出

2012年5月25日、貴局はホームページ上で「利根川・江戸川河川整備計画」における治水対策に係る目標流量に関する意見募集を発表しました。以下この意見募集を「目標流量パブコメ」と記します。

この発表を眼にしたときの第一印象は

- 安全度を 1/70 から 1/80 に設定した場合、どのような河川施設を含めた整備が必要になるのか何も書かれていない。
- その場合の目標流量は 17,000m³/秒であることもよく読まないと気がつかない。
- 気がついたとしても、17,000m³/秒にどんな意味があるのか全く説明がない。
- 付属の資料は専門的すぎて読む気にもならない。
- 利根川水系河川整備計画ではなく利根川・江戸川河川整備計画となっているのは何故だろう

というものでした。

こんな情報しか与えないのであればたいいの人には「安全な方がよい」としか答えようがありません。

もし「1/70 から 1/80 でよいです。」と承認したならば、自動的に「ハッ場ダム事業推進」になってしまうことが一切記載されていません。このような「目標流量パブコメ」はいわば詐欺同然です。

このような詐欺まがいの「目標流量パブコメ」は取りやめて、河川法 16 条の 2 に則った利根川水系河川整備計画策定を進めることを求めます。

以下、「目標流量パブコメ」は取りやめと利根川水系河川整備計画策定方法について提案致します。

1. 利根川流域の住民の安全を守るために何が本当に必要なのかの議論を優先すべきである。

貴局が 5 月 25 日にホームページに掲載した「目標流量パブコメ」に掲載されている、記者発表資料・別紙「利根川・江戸川において今後 20～30 年間で目指す安全の水準に対する意見募集について」『利根川・江戸川河川整備計画』における治水対策に係る目標流量に関する意見募集・別添「利根川・江戸川において今後 20～30 年間で目指す安全の水準についての考え方」『利根川・江戸川河川整備計画』における治水対策に係る目標流量について」のすべてに、整備目標を 1/70～1/80 (=17,000 m³/秒) とした場合に必要な事業が書かれていません。整備目標を 1/70～1/80 (=17,000 m³/秒) とする理由については一般の市民には理解不能な専門的解説を資料として付けるのみで全く理解不能です。さらに整備目標を 1/70～1/80 (=17,000 m³/秒) とした場合に利根川・江戸川水系はどのような河川環境になるのかも示されていません。

これらのことから、今回のパブコメの狙いは、それによってハッ場ダム建設事業をはじめとした河川施設の建設が必要になることを説明せずに、不安材料のみを付けて整備目標 1/70～1/80 (=17,000 m³/秒) を提示することで、大きな治水安全度・目標流量を求める声があることを示すことにあることが見て取れます。「整備目標 1/70～1/80=17,000 m³/秒」を支持するパブコメ応募を集めることで、「整備目標 1/70～1/80=17,000 m³/秒を担保するにはハッ場ダムが必要」と結論づけることがこの「目標流量パ

ブコメ」の目的であることは明かです。今最も争点となっているハツ場ダムを隠した詐欺まがいのやりかたと言わざるを得ません。

「何故このような『目標流量パブコメ』をいま行うのか?」という質問に対して、「官房長官裁定に（ハツ場ダムを必要としている）目標流量の検証が挙げられているから」と国土交通省の担当者が答えていることから、「目標流量パブコメ」がハツ場ダム事業再開条件をクリアすることに置かれていることが分かります。

「利根川水系河川整備計画」策定に当たっては、利根川が抱えている問題点を整理してかかげ、それらの解消にはどのような対策が必要なのか、どの程度のコストを必要とするのか、それらの対策で逆に失われるものは何なのか、などに踏み込んだ論議が必要であること流域住民と河川管理者が共有することが先決です。しかし、今回のようなやり方では利根川の問題点が隠蔽され、ダムに予算が貼り付けられることで、利根川流域で氾濫の危険性のあるところが放置されてしまいます。これからは、つくりすぎた社会資本の更新・維持管理の費用が急増していく時代でありますから、巨額の河川予算を利根川に投入し続けることができません。流域住民の安全を守るための喫緊の対策を厳選して、そこに河川予算を集中しないと、氾濫の危険がある状態が半永久的に残されてしまいます。

したがって、利根川水系河川整備計画の策定では、何よりもまず、「利根川流域の住民の安全を守るために今何が必要とされているか」の議論が必要であって、過大な河川施設の建設を隠した今回の治水安全度のパブコメは撤回すべきです。

2. 治水安全度 1/70～1/80 の目標流量は 17,000 m³/秒よりはるかに小さい。

今回のパブコメは、治水安全度 1/70～1/80 にすることについて意見を求めています。住民の大半は治水安全度を 1/70～1/80 という高いレベルにすることに反対しないでしょう。それが今回のパブコメの狙いであって、治水安全度を 1/70～1/80 にすることに賛意が得られれば、それは八斗島地点の治水目標流量 17,000 m³/秒に相当するとして、17,000 m³/秒を正当化できるように仕組まれています。

しかし、1/70～1/80 の洪水流量を 17,000 m³/秒とするのはハツ場ダムを造らんがために数字あわせをしたモデルによるものであって、科学的な根拠はありません。この洪水流出計算について昨年、日本学術会議のお墨付きを得たという書き方がされていますが、学術会議といっても、その構成委員の大半は、いわゆる河川ムラの御用学者の面々であり、その審議結果は信頼できるものではありません。むしろ、その会議の資料によって、洪水流出計算の非科学性が明確になっています。利根川の洪水流量について戦後の森林荒廃時の洪水を除いた最近 60 年の実績流量に基づいた計算を「水文統計ユーティリティ V1.5」をもちいて行えば、SLSC0.3 以下のモデルがないために 0.4 以下のモデルを採用すれば、1/70～1/80 の洪水は 17,000 m³/秒より 1,500～3,000 m³/秒程度小さい流量になります。上端部分の一致性のモデルを採用すると 7,000m³/秒も小さい 10,000m³/秒程度になってしまいます。

3. 河川整備計画の治水整備目標はどんな洪水が来ても死者を出さないことに置くべきである。

治水の基本は「どんな洪水が来ても死者を出さない」ことにあります。

治水安全度から治水目標流量を求める方法をとると、現実から遊離した洪水流出計算によって過大な値が求められてしまいます。治水整備最終目標を基本方針通りの 1/200 に置いてしまえば、達成不能な事態に陥ってしまいます。ダム依存の治水対策はその効果がきわめて限定的であり、いわばカケのよう

なものです。そればかりかダムによる川や海、自然系に対する弊害、ダム湖周辺の斜面崩壊誘発危険など、負の要因は計り知れず、更に莫大な費用がかさみ、河道整備に回す財源が無くなってしまいます。よって、まずはハッ場ダムのような新規ダムを必要とする河川整備から脱却しなければなりません。

「どんな洪水が来ても死者を出さない」利根川にするには現状ではどのような問題があるのかを明らかにすると共に、1997年の河川法改正で取り入れられた環境重視の視点で、20～30年後の利根川・江戸川のイメージをつくりあげてことを利根川・江戸川河川整備計画策定の目標にすえたいと思います。

治水面でいうならば、既往洪水に対応できるように策定されるべきです。利根川の場合は戦争直後で森林が荒廃していた昭和20年代前半を除いて、最近60年間の最大洪水実績流量をベースにすべきです。その最大流量は1998年の約10,000 m³/秒であるから、それに余裕を見た12,000～13,000 m³/秒を治水目標流量とすべきです。関東地方整備局は現状では、八斗島地点流量12,000～13,000 m³/秒に相当する流下能力を持ち合わせていない地点が何カ所かあるとしています。それらの地点の流下能力を確保すると共に、それを超える洪水に対しては越流しても破堤しにくい堤防の整備とソフト面の充実で対応することで、利根川流域住民の安全は十分に確保されます。

4. 利根川・江戸川河川整備計画策定は流域住民と河川管理者との協働作業で！

河川整備計画は1997年の河川法改正で河川法第16条の2として位置づけられました。

それまでの河川整備が環境に目を向けていなかったことの反省と、流域住民との合意形成が何よりも大切であるという反省からの河川法改正でした。

関東地方整備局管轄である多摩川においては河川法が改正されて直ちに整備計画策定作業が始まりました。改正河川法の意気込みを引き継ぎ、流域住民との協働作業を基軸に策定作業は進められました。京浜河川事務所の皆さんと流域住民との回数を重ねての堤防等の河道視察、何度とない流域セミナーという名の公開討論会、それは多摩川を愛する人達による「自分達の川造り」でした。3年をかけた2000年に多摩川水系河川整備計画は完成しました。

多摩川水系河川整備計画策定作業開始から15年になります。多摩川水系河川整備計画策定と同様に、「利根川は流域住民の宝」を目指し、利根川水系河川整備計画策定が私たち流域住民と共に進むことを願うばかりです。

差出人: [REDACTED]
送信日時: 2012年6月17日 曜日 14:30
宛先: tone-plan2@ktr.mlit.go.jp
件名: 「利根川・江戸川河川整備計画」事務局 宛

意見

多様な変動要因を含む自然現象をモデル化して、その挙動を予測するのですから、モデルの構造、境界条件、入力
のデータによって予測の結果がことなることは十分あり得ることです。したがって自然現象を読み解くとき、多様な見
解があるのは当然であり、そうであるからこそ異論を含めて公開の場で予断を排しての議論が必要です。

「利根川・江戸川において今後 20～30 年間で目指すべき安全の水準」を確保するにあたって、「70～80 年に一度の規
模の洪水に対応、治水目標流量 17,000??秒」の是非如何と問われて、一般市民はどう答えることができるでしょうか？
一般市民が承知していることは、八ツ場ダム建設計画の経緯のなかで、国土交通省の伝統的なダムによる治水の手法
が旧態依然たるものであり、その手法は現在社会経済的にも、財政的にも立ちいかなくなっていること、治水の方策
としては他にも手法があり得ること、その故にこそ広く多様な意見を求める必要があるということです。そのために
こそ有識者・学識経験者の皆さんに開かれた議論をお願いしているのです。願ひて悔いのないこれからの河川行政の
嚆矢となる河川整備計画の策定をお願いします。

- ① [REDACTED]
- ② 千葉県柏市
- ③ [REDACTED]

④ 60 歳以上

⑤ 男性

『利根川・江戸川において今後20～30年間で目指す安全の水準についての考え方ー「利根川・江戸川河川整備計画」における治水対策に係る目標流量についてー』に関する意見

①□ 氏名	[REDACTED]		
②住所	(都県名) 群馬県	(市区町村名) 太田市	[REDACTED]
③電話番号又はメールアドレス	[REDACTED]		
④年代	20歳未満・20代・30代・40代・50代・60歳以上	⑤性別	男性・女性
⑥ご意見 目標流量 17,000 m³/S の信憑性について 従来から河川整備計画関連では八斗島地点の戦後最大流量は 17,000 m³/S といわれてきており、最近でも日本学術会議において評価されているということですが、戦後間もなくの資料等が充分でなく、観測精度も高いとはいえない時点での推定値が、現代の最高の技術をもってして推定した値と同じであるということに若干疑問があるところです。 しかし、河川整備計画では目標流量の設定が必要であることから、他に方法がない中ではやむを得ないと思います。			

(別添: 意見提出様式)

『利根川・江戸川において今後20～30年間で目指す安全の水準についての考え方ー「利根川・江戸川河川整備計画」における治水対策に係る目標流量についてー』に関する意見

①氏名			
②住所	(都県名) 群馬県	(市区町村名) 高山市	
③電話番号又はメールアドレス			
④年代	20歳未満・20代・30代・40代・50代・60歳以上	⑤性別	男性 女性
⑥ご意見 (意見ごとにできるだけ200字以内で記載して下さい)			
意見① 利根川流域の住民の安全を守るために何か必要とされているかの議論が必要なのであって過大な河川施設の建設を目的とした今回の治水安全度のパブリックコメントを河川整備計画策定の前段階でやることは有害無益です。 ② 治水目標流量は机上の計算ではなく、実績洪水流量をベースにすべきです。 ③ ゲリラ豪雨による内水氾濫への対策として雨水浸透施設の設置、排水機場の強化の実施が急務。 ④ 鋼矢板やソイルセメント連続地中壁を堤防中心部に設置するハイブリッド堤防による堤防強化工事の早急の推進。 スーパー堤防や首都圏氾濫区域堤防強化対策事業は、非常に長い年月を要し、事業費も大きく膨れ上がる事が予想される。 以上			

『利根川・江戸川において今後20～30年間で目指す安全の水準についての考え方―「利根川・江戸川河川整備計画」における治水対策に係る目標流量について―』に関する意見

①氏名	[REDACTED]		
②住所	(都県名) 東京都	(市区町村名) 千代田区	[REDACTED]
③電話番号又はメールアドレス	[REDACTED]		
④年代	60歳以上	⑤性別	男性
⑥ご意見 (意見ごとにできるだけ200字以内で記載して下さい) 安全の水準は年超過確率1/80以上を確保するのが妥当である。 利根川・江戸川は、我が国の政治・経済等の中枢機能が集中した東京及びその周辺地域を氾濫区域とする重要な河川である。 国民生活と日本経済に重大な打撃を与える利根川・江戸川の水害を最大限に防止するために、計画的予防的な治水投資を優先して行う必要がある。 “3.11”で被災した海岸堤防の復旧事業が目ざす“レベル1”、つまり1/100前後の安全水準に照らしても、利根川・江戸川の重要性に鑑みて、1/80以上という水準は決して高くない。 最低でも、実績洪水の17,000 m³/s（ハツ斗島上流氾濫後）の1/80を目標流量とすべきである。 以上			

『利根川・江戸川において今後20～30年間で目指す安全の水準についての考え方―「利根川・江戸川河川整備計画」における治水対策に係る目標流量について―』に関する意見

①□ 氏名	[REDACTED]		
②住所	(都県名) 千葉県	(市区町村名) 松戸市	
③電話番号又はメールアドレス	[REDACTED]		
④年代	60歳以上	⑤性別	男性
⑥ご意見 (意見ごとにできるだけ200字以内で記載して下さい)			
意見1 「利根川・江戸川河川整備計画」における目標流量について、年超過確率を1/70~1/80と定めることは、取り合えず緊急に整備する水準として妥当と考えます。			
意見2 今後、年超過確率の1/70~1/80を出来るだけ早期に引き上げるべきである。 利根川・江戸川流域には人口と資産が集積しておりこの地域が洪水に襲われることは、国家的な損失であり世界に与える影響を考えると、1/70~1/80という数字は充分とはいえない。世界の諸外国では既に地球温暖化による気候変動を考慮した治水対策を実施しており、このような水準では世界から国家としての信用も失いかねない。			
意見3 整備期間の短縮を図るべきである。 古来より治水対策は、一度発生した洪水を再来させないという現実的対応で行われてきた。この地域に住む住民にとっての災害の記憶はカスリーン台風であり、今回の整備目標がそれを下回することは大きな不安材料である。洪水の都度丈夫になって行くという河川整備でないと、住民の安全を目指したことになるのではないのか。			
意見4 洪水規模を年超過確率という表現で示すことは非常に分かりづらい。もっと端的な表現に改めるべきだと考えます。(例えばカスリーン台風時の洪水流量に対して同等程度とか1.5倍の洪水でも耐えられるというような表現はいかがでしょうか。 確率という表現は、長野県の脱ダム、ハッ場ダム、スーパー堤防など何れの時も、マスコミ、政治家、国民の誤解を生みだしてきた。啓もうして正しい理解を求めようにも大きな誤解が浸透してしまった今、もっと分かり易い表現に変えるべきである。地震の強度は応答震度法や加速度の大きさでは説明していない、「震度階」があって分かり易くなっている。 伊勢湾台風や、狩野川台風、カスリーン台風など被害を発生した既往最大洪水を基準として説明することが、その地域地域にとって分かり易いし受け入れられる表現だと考えます。			

『利根川・江戸川において今後20～30年間で目指す安全の水準についての考え方-「利根川・江戸川河川整備計画」における治水対策に係る目標流量について-』に関する意見

- ①氏名 [REDACTED]
②住所 〒[REDACTED] 千葉県松戸市 [REDACTED]
③電話番号 [REDACTED]
メールアドレス [REDACTED]
④年代 60歳以上 ⑤性別 女性
⑥ご意見

私は、国土交通省の提示される、「今後20～30年間で目指す安全の水準に対応する『治水対策に係る目標流量』を設定する」というやり方自体に、反対します。

なぜならば、利根川水系河川整備計画の策定では、何よりも、「利根川流域の住民の安全を守るために今、何が必要とされているのか」の議論が大切なのであって、過大な河川施設の建設を進める可能性の強い「目標流量」を設定すること自体が、有害無益だと思うからです。

利根川や江戸川の本川・支川では、洪水で水位が上昇した時に堤防が壊れる危険性のある脆い堤防が各所にあると聞いています。現在の堤防は計画高水位までの洪水に対しては堤防が壊れないように設計されているそうですが、堤防を超える洪水に対しては強度が保証されていません。堤防が一挙に崩壊した時の方が、大変な洪水被害がでるわけですから、すぐには壊れないように堤防を強化することが必要であると思います。国土交通省によれば、危険性のある区間の割合がなんと利根川で62%、江戸川で60%に及ぶそうです。

そういう場所を一刻も早く強化工事することの方が、急務ではないでしょうか？それをスーパー堤防などの巨大土木事業としてではなく、最小限の費用でできる堤防強化技術でやってほしいのです。

また、洪水対策のための「目標流量」の設定と言いますが、近年の浸水被害は被災地でのゲリラ豪雨が引き起こした内水氾濫によるものが多いのですから、排水機場の強化などの内水氾濫対策の方が先に実施すべきことでしょう。

これからは、今までのインフラ施設の更新や維持管理の費用が増加していく時代なので、現実から遊離した洪水流出計算による治水計画で巨大公共事業を続けていくことは、不可能です。人口減少時代を迎える未来の子どもたちのためにも、安価で、どうしても必要な流域住民安全対策の方に河川の予算を集中してくださるよう、ぜひお願いいたします。

(789文字)

『利根川・江戸川において今後20～30年間で目指す安全の水準についての考え方ー「利根川・江戸川河川整備計画」における治水対策に係る目標流量についてー』に関する意見

①氏名	[REDACTED]		
②住所	(都県名) 東京都	国分寺市	[REDACTED]
③電話番号又はメールアドレス	[REDACTED]		
④年代	60歳以上	⑤性別	男性
⑥ご意見 (意見ごとにできるだけ200字以内で記載して下さい) 国交省ご検討の「利根川・江戸川河川整備計画における治水対策に係わる目標流量について」に対して反対いたします。それは八斗島地点の治水目標流量 17,000 m³/秒の算出が恣意的計算であるからです。もう一度原点に立ち返って、最初に結論ありきではない、科学的、客観的計算をなさることを要請いたします。			

『利根川・江戸川において今後20～30年間で目指す安全の水準についての考え方ー「利根川・江戸川河川整備計画」における治水対策に係る目標流量についてー』に関する意見

①氏名	[REDACTED]		
②住所	(都県名) 埼玉県	(市区町村名) 久喜市	
③電話番号又はメールアドレス	[REDACTED]		
④年代	20歳未満・20代・30代・40代・50代・60歳以上	⑤性別	男性・女性
⑥ご意見 (意見ごとにできるだけ200字以内で記載して下さい)			
意見1 資料例示で「30年間に少なくとも1回は年超過確率1/80以上の洪水が発生する確率が約31%」から、大洪水がいつ起きても不思議ではない。 河川整備の安全水準が高くなれば、洪水による被災頻度は一般的に減じるものの、安全水準を超えた洪水に対する住民の備え・心構え・意識が時の流れとともに低減していく可能性があります。河川整備のハード対策(提案に賛同)も重要ですが、情報伝達や避難システム等々のソフト対策を安全水準の設定と合わせて考えていく必要があるのではないのでしょうか。 意見2 現状の安全水準1/40から、整備計画の安全水準1/80にレベルアップするために必要となる整備メニュー・整備費用・実施期間について、その概要が示されれば理解を助けるのですが。また、安全水準の向上に伴う整備施設についても、その後の維持更新費用をできるだけ軽減させる整備内容であってほしいものです。			

(別添：意見提出様式)

『利根川・江戸川において今後20～30年間で目指す安全の水準についての考え方「利根川・江戸川河川整備計画」における治水対策に係る目標流量について』に関する意見

①氏名	[REDACTED]		
②住所	(都県名) 茨城県	(市区町村名) 水戸市	[REDACTED]
③電話番号又はメールアドレス	[REDACTED]		
④年代	20歳未満・20代・30代・40代・50代・60歳以上	⑤性別	男性・女性
⑥ご意見 (意見ごとにできるだけ200字以内で記載して下さい)			
週末など治水流量を定めることによりハツ場ダム建設を 推進すること。すなわち無球を公費削減を促すことは、 全くナンセンスです。民主党は公約を守って下さい。			

『利根川・江戸川において今後20～30年間で目指す安全の水準についての考え方―「利根川・江戸川河川整備計画」における治水対策に係る目標流量について―』に関する意見

①氏名			
②住所	(都県名) 千葉県	(市区町村名) 習志野市	
③電話番号又はメールアドレス			
④年代	20歳未満・20代・30代・40代・50代・60歳以上	⑤性別	男性・女性
⑥ご意見 (意見ごとにできるだけ200字以内で記載して下さい)			
1. 目標流量につき、意見聴取することの意味 (1) 今回、関東地整は「利根川・江戸川において今後20～30年間で目指す安全の水準についての考え方」として、その治水対策に係る目標流量につき、パブリックコメントを求めているが、この意見聴取の問い方は治水論議の本質に反し、矮小化したものであり、ひどく不適切なものだと考える。 (2) 地震とは異なり、洪水についてはかなりの程度、正確な予知が可能である。従って、的確な対策が立てられれば、自然現象である洪水を「水害」という災害に転化させずにすむ。では、洪水を大水害に転化させてしまう要因は何か。それは、破堤により堤内地に流入する洪水流量が急激に増える場合であるから、いかに破堤を防ぐかが、最も重要な水害対策である。 ア 従来の治水計画は「想定洪水を氾濫させることなく、安全に河道内を流下させる」というものであり、具体的には想定洪水と河道で対応する分担流量を定めるものであった。いうまでもなく、両者の差額が上流ダム群の調節流量である。 イ 上流でダムを整備すれば、ダムによる洪水調整により洪水時の河川水位を低減させることができ、河川水位が低減すれば、破堤の可能性は小さくなる。しかし、ダムによる洪水調節は、降雨パターンに大きく左右されるから、その効果は確実性がない。目覚しい効果を発揮することもあるが、全く効果がない場合もある。そして、ダムによる洪水調節効果は下流にいくにつれ、顕著に減衰するのだから、流域全体にひろく効果を持つものではない。にもかかわらず、ダム事業には多額の予算を要する。 ウ これに対して、堤防整備の場合は降雨パターンに左右されない。堤防の補強の成果が降雨パターンによらず確実に発揮される。越流破堤、浸透破堤、洗堀破堤など破堤原因は様々なものがあるが、ダムによる洪水調節を治水計画の主要手段におく場合は、想定される様々な破堤原因に対して、一律に河川水位を低減させることで破堤確率を減少させるという、まことに効率の悪い破堤対策にしかならない。しかも、前述したようにダムによる洪水調節そのものがギャンブル治水であり、たとえ効果があっても下流にいけば行くほど調節効果が減衰するのだから、洪水を大水害に転化させる破堤対策として、①洪水調節の効果（河川水位の低減）、②効果の維持、③破堤原因との対応関係という点で、ダムによる洪水調節は破堤対策として劣っている。 (3) しかし、今回のパブリックコメントでは、「今後20～30年間で目指す安全			

の水準についての考え方」として、いきなる目標流量の意見公募を求めている。しかし想定洪水・目標流量という定量的な目標の前に、治水計画は何を実現するものなのか、水害を防備するためには何が必要なのか、を的確に論議することが肝要である。それが合意形成の第1歩である。「今後20～30年間で目指す安全の水準」と「今後20～30年間の治水計画で目標とする洪水レベル」は決して同義ではないのであって、同義ではないものを同義とみなすことは看過し得ない矮小化であって、ひどく不的確な意見公募と考える。

2. 整備計画で想定する治水安全度について

- (1) 関東地整の原案では、①河川整備計画は、今後20～30年を想定した事業計画であり、20～30年で整備できる水準の事業計画でなければならないこと、②首都圏を背後に抱える利根川の重要性をふまえ、1/70～1/80という治水安全度が設定されたが、全くもって論理的・整合的な説明ではない。なぜなら、原因不明のまま2008年5月から中断している河川整備計画の立案作業において、同様に①・②は指摘されながら、当時は1/50という治水安全度を想定していた点である。
- (2) ①河川整備計画は、今後20～30年を想定した事業計画であり、20～30年で整備できる水準の事業計画でなければならないこと、②首都圏を背後に抱える利根川の重要性→③想定目標1/70～1/80という論理的因果性のない行政目標の提示では、まったく説明責任を果たしたことになる。なぜ、①20～30年で可能な計画規模、②利根川の重要性を踏まえれば、1/70～1/80となるのか。納得できる整合的な説明をしていただきたい。念のため、そのポイントを述べれば、それは同様に①・②の位置づけをおきながら、なぜ前回は1/50であり、なぜ今回は1/70～1/80なのかという合理的説明である。

3. 超過確率流量を17,000 m³/sと算定したことについて

- (1) 次に問題なのは、治水安全度を1/70～1/80とした時、その想定洪水流量が17,000 m³/s となるという説明である。この説明においては、既往最大洪水のカスリン台風(1947)が21,100 m³/sという虚偽説明がされている。21,100 m³/sという数値は幾つかの条件下で弾き出される再来計算の数値であり、まるでカスリン台風の実流量の推定値が21,100 m³/sであるかのように誤解するような書き方をすることは、虚偽説明であり、許されない。
- (2) さて、利根川流域の観測流量、過去60年(1951～2010)をみれば、過去最大洪水はH10(1998)年9月洪水であり、その観測流量は9,220 m³/sである。
- (3) この観測流量を基準に統計処理により、超過確率流量を算出すれば次ページの通りであって、1/200流量でさえ15,654 m³/sに過ぎず、関東地整の言う1/70～1/80洪水=17,000 m³/sという算定は明らかに過大といえる。

観測流量から求めた流量確率法による1/50確率流量(利根川八斗島)

(観測流量1951～2010年から計算)

統計手法		1/3確率 流量 m ³ /秒	1/5確率 流量 m ³ /秒	1/10確 率流量 m ³ /秒	1/30確 率流量 m ³ /秒	1/50確 率流量 m ³ /秒	1/100確 率流量 m ³ /秒	1/200確 率流量 m ³ /秒
1	指数分布(Exp)	3,298	4,636	6,451	9,329	10,667	12,482	14,298
2	ガンベル分布(Gumbel)	3,655	4,783	6,201	8,343	9,321	10,640	11,955
3	平方根指数型最大値分布(SqrtEt)	3,171	4,276	5,857	8,639	10,064	12,137	14,374
4	一般化極値分布(Gev)	3,294	4,444	6,097	9,117	10,740	13,213	16,045
5	対数ピアソンIII型分布(実数空間法)(LP3Rs)	3,677	4,956	6,377	8,028	8,600	9,224	9,706
6	岩井法(Iwai)	3,116	4,414	6,432	10,350	12,517	15,851	19,681
7	対数正規分布3母数クォンタイル法(LN3Q)	3,179	4,400	6,216	9,561	11,342	14,011	16,996
8	対数正規分布2母数(Slade I, L積率法)(LN2LM)	3,184	4,505	6,532	10,415	12,539	15,785	19,487
9	対数正規分布2母数(Slade I, 積率法)(LN2PM)	3,152	4,417	6,339	9,977	11,950	14,948	18,348
全平均		3,303	4,537	6,278	9,307	10,880	13,143	15,654

[注]観測流量:確率統計計算ソフト:(財)国土技術研究センターの水文統計ユーティリティ

以上

『利根川・江戸川において今後20～30年間で目指す安全の水準についての考え方―「利根川・江戸川河川整備計画」における治水対策に係る目標流量について―』に関する意見

①氏名	[REDACTED]		
②住所	(都県名) 栃木県	(市区町村名) 鹿沼市	
③電話番号又はメールアドレス	[REDACTED]		
④年代	20歳未満・20代・30代・40代・ <u>50代</u> ・60歳以上	⑤性別	<u>男性</u> ・女性
⑥ご意見 (意見ごとにできるだけ200字以内で記載して下さい)			
【パブリックコメントは国が示す整備計画案の全体について求めるのが筋である】 今回の意見募集は、計画案の全体像を示さずに、判断の対象を治水安全度及び目標流量に限定していますが、一般に国民はそれらの数値の持つ意味を十分に理解できませんし、目標流量17,000m³/秒については、計算過程はブラックボックスです。 国の示した治水安全度及び目標流量を認めれば、後記のようにハツ場ダム建設案が最も優位となりますが、そのことに気がつかない国民も多いと思います。 したがって少なくとも、治水安全度及び目標流量の設定の仕方とハツ場ダムの関連性が十分に説明されないまま、国民の意見を求めることは、有害無益です。 パブリックコメントは国が示す整備計画案の全体について求めるのが筋です。			
【目標流量は過大である】 利根川水系河川整備計画の治水安全度を1/70～1/80とし、治水目標流量を17,000m³/秒とすることに反対します。 整備計画について法律上治水安全度を設定する必要性はなく、目標流量は、森林が荒廃していた1950年前後を除いた、最近60年の最大洪水実績流量をベースに多少の余裕を持たせて13,000m³/秒程度とすれば十分です。 仮に治水安全度を1/70～1/80とするとしても、目標流量17,000m³/秒は、実績流量から計算しておらず、過大な数値であり、実績流量から計算すると13,000m³/秒であるとする説が正しいと思われ、これに従うべきです。 17,000m³/秒という流量は、国がカスリーン台風時の実績流量としている数値です。しかし、カスリーン台風時の実績流量は、東京大学の[REDACTED]が指摘していたように、正しくは約15,000m³/秒ですから、今回国が示した目標流量は、1/200洪水に相当するとされるカスリーン台風時の実績流量より2,000m³/秒も大きい数値であり、過大であることは明らかです。			

【以前の目標流量は15,000m³/秒だった】

国が2006年12月から2008年5月までに策定作業を進めていた利根川水系河川整備計画においては、1/50洪水を想定し、目標流量は約15,000m³/秒（当時の委託調査報告書に記載）としていました。

ところが国は、検証作業が始まるや、目標流量を恣意的に2,000m³/秒も引き上げたのは、どうしても八ツ場ダムを正当化したかったからだとは思えません。

【八ツ場ダムのピーク流量削減効果も勝手に倍増させた】

八ツ場ダムによって基本高水のピーク流量から削減できる流量は、従来600m³/秒とされていましたが、2011年9月になると国は1,176m³/秒という数値を出してきました。八ツ場ダムを建設する意味は小さいとの批判をかわすねらいがあったものと思われます。

国は、目標流量やダムのピーク流量削減効果を都合よく変えてしまうのですから、その意味でも国民が数字合わせに付き合わされる意味はありません。

【そもそも目標流量を設定する意味がない】

八斗島地点での計画高水流量は16,500m³/秒であり、国は、「利根川の現況の流下能力は八斗島付近では計画高水流量規模の流下能力は有している」（「利根川（上流）河川維持管理計画」（2012年作成）16頁）ことを認めています。

他方、最近60年間の最大洪水実績流量（八斗島地点）は1998年9月の約10,000m³/秒であり、利根川及び江戸川本川における破堤はなく、ほとんどの区間で十分な流下能力が確保されています。

だからといって、利根川水系の治水対策が不要というわけではありませんが、少なくとも流下能力に着目した数字合わせをやる意味はありません。

【そもそも河川整備計画を議論する意味がない】

なるほど河川法施行令には、基本高水、計画高水、河川整備計画の目標を定めるように規定されており、そんなものを定める意味がないと言ったら立法論になってしまいますが、国が基本的な数値を科学的に計算せず、その数値にお墨付きを与える審議機関が「河川ムラ」の住人である御用学者に独占されている状況で、数値を定めて計画を立てる意味も、整備計画に関係住民が参加する意味もほとんどありません。

【今回の意見募集はマジックの仕掛けであり、ワナである】

今回の意見募集は、八ツ場ダム建設が流域住民の民意であることにしてしまうマジックのギミックであり、伏線であり、国が仕掛けたワナだと思います。

国は、目標流量17,000m³/秒とした場合は、現況流下能力16,500m³/秒との差500m³/秒を低減させるには、八ツ場ダムが最も有利になるという筋書きを持っていながら、それを隠して、治水安全度と目標流量について過大な案を示しているとは思えません。

国民はいったん治水安全度を1/70～1/80とし、治水目標流量を17,000m³/秒とすることに賛成したならば、ダムなどの巨大施設の建設に賛成したことにさせられてしまうのです。国は恐るべきワナを仕掛けていていると思います。

【国が求めているのは国民によるお墨付きである】

国は、この意見募集により、目標流量17,000m³/秒について、治水安全度は大きいほど暮らしが安全になると勘違いする多くの国民の賛成意見を集め、その後、この目標流量を達成するには代替案に比べて八ツ場ダムが最も効果的で安上がりであるという審議機関のお墨付きを得て、八ツ場ダムは国民の圧倒的な支持と学者の理論に裏付けられた正当な事業であると主張することを目論んでいると思います。

理由は、上記のとおり、国は治水安全度と八ツ場ダムの関連性を説明していないからです。

国は御用学者からお墨付きを得てダム建設計画を進めているとの批判をかわすために、今後は国民のお墨付きを得て、だれにも反対させないでダム建設計画の推進を画策しているとしか思えません。

【定量治水からの転換が必要である】

基本高水と計画高水の差の流量をダムと河道整備に割り振るという、河川法の定めた枠組みによって治水政策を進めると、差がなくなればやる事がなくなってしまうし、国が治水の仕事をしようとするれば、無理にでも基本高水を上げるか計画高水を下げるしかありません。

そして、このような数字合わせで策定したダム計画などを達成したとしても、想定した洪水を超える規模の洪水が来た場合には治水施設は機能せず、大規模な水害を甘受するしかありません。これでは国民を守ったことにはなりません。

河川法の定める「定量治水」とも呼ぶべき治水政策は、「ダムありき」の発想であり、一刻も早く改めるべきです。

ダムを造るための数字合わせをやめないと、国民の安全を守れません。

【やるべきことは安全対策である】

今やるべきことは、国民の安全を守るために何が必要かを議論することであり、ダムを正当化するための数字合わせをすることではありません。

具体的には、流域の降雨の河川への流出量を抑制したり、越水しても破堤しないように堤防を補強したり、ゲリラ豪雨による内水氾濫対策を講じたり、等々、緊急にやるべきことはたくさんあります。

これらの対策について住民参加の下で十分な議論をすることが必要であると考えます。

差出人: [REDACTED]
送信日時: 2012年6月19日火曜日 14:57
宛先: tone-plan2@ktr.mlit.go.jp
件名: 「利根川・江戸川河川整備計画」事務局宛

『利根川・江戸川において今後20～30年間で目指す安全の水準についての考え方 - 「利根川・江戸川河川整備計画」における治水対策に係る目標流量について - 』に関する意見

- ①氏名 [REDACTED]
②住所 [REDACTED]
③メールアドレス [REDACTED]
④年代 60歳以上 ⑤性別 女性
⑥ご意見

私は、国土交通省の提示される、「今後20～30年間で目指す安全の水準に対応する『治水対策に係る目標流量』を設定する」というやり方自体に、反対します。

治水目標流量17000m³/秒は大きすぎると思います。

さらに利根川水系河川整備計画の策定でまず考えなければならないことは利根川流域住民の安全です。

利根川や江戸川の本川・支川では、洪水で水位が上昇した時に堤防が壊れる危険性のある脆い堤防が各所にあると聞いています。現在の堤防は計画高水位までの洪水に対しては堤防が壊れないように設計されているそうですが、堤防を超える洪水に対しては強度が保証されていません。堤防が一挙に崩壊した時の方が、大変な洪水被害がでるわけですから、すぐには壊れないように堤防を強化することが必要であると思います。国土交通省によれば、危険性のある区間の割合がなんと利根川で62%、江戸川で60%に及ぶそうです。

そういう場所を一刻も早く強化工事することの方が、急務ではないでしょうか？

巨額の河川予算を利根川に投入し続けるのではなく、それをスーパー堤防などの巨大土木事業としてではなく、最小限の費用でできる堤防強化技術でやってほしいと思います。

『利根川・江戸川において今後20～30年間で目指す安全の水準についての考え方ー「利根川・江戸川河川整備計画」における治水対策に係る目標流量についてー』に関する意見

①氏名	[REDACTED]		
②住所	(都県名) 千葉県	(市区町村名) 佐倉市	
③電話番号又はメールアドレス	[REDACTED]		
④年代	20歳未満・20代・30代・40代・50代・60歳以上	⑤性別	男性・女性
⑥ご意見 (意見ごとにできるだけ200字以内で記載して下さい)			
意見1 ハッ場ダム建設をするための目標流量を決めることに反対。利根川・江戸川の治水の安全は近年多発するゲリラ豪雨で内水が氾濫し処理しきれない状態をいかに解決するかである。上流の雨をダムで堰き止めても素人考えでも治水効果は無い。 意見2 河川整備計画の目標流量数値は過大に設定していると考え。近年の現状(ゲリラ豪雨、内水氾濫)から内水氾濫を重視すべき。内水氾濫水量のすべてを川に排出できない。内水氾濫水量は内水で一時保留すべき。 内水は水田などの涵養域、校庭など一時貯留地帯の確保で洪水からの被害を回避すべき。 そのためには流域県市町村で水のマスタープランの徹底が必要。 意見3 ハッ場ダム建設では利根川・江戸川の治水対策にはならない。ハッ場ダムの建設にこだわるのではなく、河川整備計画では利根川の堤防をしっかりと建設すべきである。 意見4 ハッ場ダムを建設させるために数値だけを独り歩きさせてはいけない。			

(別添：意見提出様式)

『利根川・江戸川において今後20～30年間で目指す安全の水準についての考え方ー「利根川・江戸川河川整備計画」における治水対策に係る目標流量についてー』に関する意見

①氏名			
②住所	(都県名) 千葉県	(市区町村名) 鎌倉市	
③電話番号又はメールアドレス			
④年代	20歳未満・20代・30代・ <u>40代</u> ・50代・60歳以上	⑤性別	男性・ <u>女性</u>
⑥ご意見 (意見ごとにできるだけ200字以内で記載して下さい)			
目標流量だけで意見と求めるのはおかしい と思います。 河川整備計画は治水だけではなく、 利水や環境も検討すべきものです。 また、最近の集中豪雨は短時間に局所的 に降るため、内水氾濫が心配です。			

『利根川・江戸川において今後20～30年間で目指す安全の水準についての考え方ー「利根川・江戸川河川整備計画」における治水対策に係る目標流量についてー』に関する意見

① 氏名	[REDACTED]		
② 所	(都県名) 群馬県	(市区町村名) 高崎市	[REDACTED]
③電話番号又はメールアドレス	[REDACTED]		
③ 代	20歳未満・20代・30代・40代・50代・60歳以上	⑤性別	男性・女性
⑥ご意見 (意見ごとにできるだけ200字以内で記載して下さい) 最近60年間で八斗島地点での最大実績流量は、1998年の10,000/秒程度に過ぎませんから、17,000/秒という数字は極めて過大な数字です。 治水計画は基本的に過去の洪水の再来に耐えられるように策定されるべきであり、利根川の場合は最近60年間の最大洪水実績流量を基とすべきです。1998年の実績流量に余裕を見て12,000から13,000/秒を治水目標とすべきです。			

(別添：意見提出様式)

『利根川・江戸川において今後20～30年間で目指す安全の水準についての考え方ー「利根川・江戸川河川整備計画」における治水対策に係る目標流量についてー』に関する意見

①氏名			
②住所	(都県名) 茨城県	(市区町村名) 取手市	
③電話番号又はメールアドレス			
④年代	20歳未満・20代・30代・40代・50代・60歳以上	⑤性別	男性・女性
⑥ご意見 (意見ごとにできるだけ200字以内で記載して下さい)			
① 目標流量のみの意見といわれると、関東地方整備局の数字をみても判断に迷います。最近60年間のデータでも治水安全度流量は過大ではないです(2)P。計画案の前提に反対です。 ② 利根川流域の街に昭和27年くらい住んでいました。利根川本流(八斗島下流?)江戸川本流で破堤したことはないと思います。 ③ 地球温暖化で、様々な変動で、最近の洪水は都市部地に局所的な降る集中豪雨に因るから。その対策を求めます。 ④ 半世紀以上も同じ考えて、周辺整備の様な無駄と見る工事を延々と続け税金を使い続け地元の人々を苦しめている愚かな事業は中止してください。地元住民の方々の生活再建に力を入れてください。			
2012年 6月19日			

(別添：意見提出様式)

『利根川・江戸川において今後20～30年間で目指す安全の水準についての考え方ー「利根川・江戸川河川整備計画」における治水対策に係る目標流量についてー』に関する意見

①氏名	[REDACTED]		
②住所	(都県名) 東京都	(市区町村名) 葛飾区	[REDACTED]
③電話番号又はメールアドレス	[REDACTED]		
④年代	20歳未満・20代・30代・40代・50代・60歳以上	⑤性別	男性・女性
⑥ご意見 (意見ごとにできるだけ200字以内で記載して下さい)			
ハツ場ダム建設に反対です 私は利根川近く中川流域で生 きています 利根川流域住民の安全は堤防 の強化で充分守れると思っています			

(別添：意見提出様式)

『利根川・江戸川において今後20～30年間で目指す安全の水準についての考え方「利根川・江戸川河川整備計画」における治水対策に係る目標流量について』に関する意見

①氏名	[REDACTED]		
②住所	(都県名) 東京都	(市区町村名) 葛飾区	[REDACTED]
③電話番号又はメールアドレス	[REDACTED]		
④年代	20歳未満・20代・30代・40代・ <u>50代</u> ・60歳以上	⑤性別	男性・ <u>女性</u>
⑥ご意見 (意見ごとにできるだけ200字以内で記載して下さい)			
ハッ場ダム 建設に反対です。 利水に関して 東京都の水需要の 実績は減少しつつあると山形県 に比べ、治水面からもハッ場ダム の必要性が立証されている です。無駄なコストのために 貴重な税金を使わないでほしい です。			

『利根川・江戸川において今後20～30年間で目指す安全の水準についての考え方ー「利根川・江戸川河川整備計画」における治水対策に係る目標流量についてー』に関する意見

①氏名	[REDACTED]		
②住所	(都県名) 栃木県	(市区町村名) 栃木市	
③電話番号又はメールアドレス	[REDACTED]		
④年代	20歳未満・20代・30代・40代・50代・60歳以上	⑤性別	男性・女性
⑥ご意見 (意見ごとにできるだけ200字以内で記載して下さい)			
目標流量についての意見は、河川整備計画全体の案を示す中で求めるのであれば、おかしいと思います。 さらに、目標流量の17,000 m³/s が、1/70～1/80の洪水に相当する流量であるというが、科学的根拠が示されない。目標流量は、最近60年間で八ツ斗島地点の最大実績流量が、10,000 m³/s であるにもかかわらず、17,000 m³/s とするのは過大であり反対です。			

『利根川・江戸川において今後20～30年間で目指す安全の水準についての考え方―「利根川・江戸川河川整備計画」における治水対策に係る目標流量について―』に関する意見

①□ 氏名	[REDACTED]		
②住所	(都県名) 茨城県	(市区町村名) 小美玉市	
③電話番号又はメールアドレス	[REDACTED]		
④年代	20歳未満・20代・30代・40代・50代・ <u>60歳以上</u>	⑤性別	<u>男性</u> ・女性
⑥ご意見 (意見ごとにできるだけ200字以内で記載して下さい)			
1 安全に対する合意形成の必要性 安全の水準を判断するのは、本来、被害者となるはずの住民でなくてはならない。住民の被害許容についての情報皆無の中での議論は有効でない。まず、住民の被害意識、許容の程度に関する調査を行い、その結果を経済負担とのバランスの上で判断しなければならない。情報を公開し公開討論の上で合意形成を行う手続きが必要である。現行の手続きを白紙に戻し、再検討されたい。 2 安全確保の代償評価の必要性 上記の手続きの経済負担の中には、河川工事で失われる環境、生物多様性、地域の文化等の価値が含まれる。安全確保のために失われる環境資源の評価を同時に示し判断を住民側に求めるべきである。 3 新しい時代にふさわしい河川整備計画の策定 生物多様性基本法も制定され、生物多様性と治水の両立が求められる時代に入った。同法を順守し早急に新しい時代にふさわしい生物多様性にも配慮した河川整備計画を策定すべきである。生物多様性に配慮した場合の目標値は今回提示流量を下回ることになるが、国土交通省は、そのことについて各方面の同意を得る努力もすべきである。 4 現地情報重視と対策 治水対策に係る目標水量の値が現実離れをした過大なものとなっている。その原因は、現地情報の不足である。出水時の現地の情報、住民の反応等をも勘案し適正な目標値を再検討されるよう希望する。また、現行の有識者会議に替えて、現地調査を経験している研究者や住民を参加させた委員会を設置し、公開の場で検討の場とすべきだ。 5 有識者会議の廃止 目標値が現実離れした値となる一因は有識者会議方式にある。想定外の被害が発生した場合には、責任の矛先が、有識者会議に向けられることになる。このことが一因となって目標流量を現実離れした過大なものとなっている。このことを避けるためには、検討委員会の運営を民主化し公開で行うことが有効である。住民や地域の研究者をも加えた新しい委員会の設置を望む。			

『利根川・江戸川において今後20～30年間で目指す安全の水準についての考え方ー「利根川・江戸川河川整備計画」における治水対策に係る目標流量についてー』に関する意見

①氏名	[REDACTED]		
②住所	(都県名) 茨城県	(市区町村名) かすみがうら市	
③電話番号又はメールアドレス	[REDACTED]		
④年代	20歳未満・20代・30代・40代・50代・60歳以上	⑤性別	☒ 男性・女性
⑥ご意見 (意見ごとにできるだけ200字以内で記載して下さい) 1. 目標流量17,000m³は過大ではないですか。私は、反対です。 私はハッ場ダム建設に反対するものですが、何故今回は目標流量だけで意見を求めるのですか。目標流量だけでなく、河川整備計画の全体を見せて意見を求めるべきで、治水だけではなく、利水や環境も検討すべきものです。 過去60年間、利根川の洪水は10,000m³を越えたものはありません。余裕を見ても12,000～13,000m³を治水目標流量とすべきです。それで、利根川流域住民の安全は十分に確保されます。 2. 脆弱な堤防の強化対策を優先すべきです。 加えて言えば、国土交通省の調査により、利根川及び江戸川の本川・支川では、洪水の水位上昇時にすべり破壊やパイピング破壊を起こして破堤する危険性がある脆弱な堤防が各所にあることが明らかにされています。破堤すれば、甚大な被害をもたらします。脆弱な堤防の強化工事こそ急がなければなりません。 無駄な、しかも危険なハッ場ダム建設よりも、河川の維持管理、堤防の強化対策に税金を使うべきです。 以上			

『利根川・江戸川において今後20～30年間で目指す安全の水準についての考え方ー「利根川・江戸川河川整備計画」における治水対策に係る目標流量についてー』に関する意見

①氏名	[REDACTED]		
②住所	(都県名) 茨城県	(市区町村名)	猿島郡五霞町 [REDACTED]
③電話番号又はメールアドレス	[REDACTED]		
④年代	20歳未満・20代・30代・40代・50代・60歳以上	⑤性別	男性・女性
⑥ご意見 (意見ごとにできるだけ200字以内で記載して下さい)			
1, 今後20～30年後で目指す安全水準」という記述について 「今後20～30年後で目指す安全水準」というフレーズは、一般の人には、30年後以降も残されている課題は想像せず「20～30年後には、利根川・江戸川の治水安全度は一定のレベルに達成する」という意味に捉えられがちである。 利根川・江戸川の治水安全度の向上への取り組みは、水象・気象の変動や社会経済の変化等必然的課題を抱えながら段階的に向上させていくというプロセスの記述が欲しい。 2, 不足している安全水準とは？ 現状の安全水準及び河川管理の限界を表現しないと「目指す安全水準」の意味性が理解されない。 ①利根川流域の現状の洪水ダメージポテンシャルに対し、現状の治水対策の水準はいかほどなのか？ ②現状堤防の破堤危険箇所の存在や堤防の浸透・侵食等による破堤メカニズムの知見限界及び河川管理の限界等課題は何か？ 3, 目標流量について 今後20～30年間で目指す安全の水準についての考え方」として、目標流量を掲げる前段に、利根川流域を含む首都圏の経済発展のため、利根川の治水の果たす役割を明確にし、あわせて河川管理への取り組みや、水防活動等水害を防備するための努力をしていく中で、河川整備としての目標流量を示したほうが良い。 4, 今後の利根川・江戸川の治水は、流域社会に何をもちたすのか？ 利根川水系では、これまでダム建設や堤防整備等を進めてきてはいるが、流域での洪水ダメージポテンシャルの増大は、治水施設整備が完成する前に人口資産が集積（開発先行型流域）されてきている現状がある（流域の発展に治水が追い付かない）。今後の利根川・江戸川流域社会は、これまでと同様開発先行型流域としての20～30年後の洪水ダメージポテンシャルを想定し、治水対策をしていくのか？			

『利根川・江戸川において今後20～30年間で目指す安全の水準についての考え方ー「利根川・江戸川河川整備計画」における治水対策に係る目標流量についてー』に関する意見

① 氏名	[REDACTED]		
② 所	(都県名) 埼玉県	(市区町村名) さいたま市見沼区	[REDACTED]
③電話番号又はメールアドレス	[REDACTED]		
③ 代	20歳未満・20代・30代・40代・50代・60歳以上	⑤性別	○男性・女性
⑥ご意見 (意見ごとにできるだけ200字以内で記載して下さい)			
意見1 利根川・江戸川河川整備計画の安全度の考え方は妥当 現在提案されている利根川・江戸川河川整備計画における治水安全度の水準は適当であると考えます。日本国土の貴重な平地を自然災害から守る治水対策は、膨大な費用と期間を要することから、長期的な目標を掲げて地域の重要性和洪水発生特性を踏まえて、逐次安全を確保していくものと考えます。首都圏を守る利根川・江戸川は現状河道やダム等調節施設の整備状況からして1/80程度の整備目標は、最低限必要であり、妥当と考えます。 意見2 1ダムの反対で利根川・江戸川の整備計画が左右されてはならない 長良川河口堰、川辺川ダムに続き公共事業の反対論者のターゲットになった八ツ場ダム、首都圏を守る重要な利根川・江戸川の治水整備計画がこれらのダムの賛否の議論に埋没してはならないと考えます。長期的に1/200でいいのか、当面(20～30年)どの程度の整備がいいのかを国民の意見を聞きつつも、国が責任を持って決定し、止まることなく河川整備を持続すべきです。 意見3 積極的な既存施設の有効活用に取り組むべきです これまで整備されたダム、遊水池、排水機場、水門等人工的な操作を伴う河川施設を計画時の操作ルールに加えて降雨と出水状況に対応した操作ができるよう検討し、ルール化すべきです。 これまで、造ることに専念して来た河川行政は、既存施設を有効に活用してこれまでに例のない特異な降雨特性に対応するために、管理を重視した体制整備に加えて、施設の操作技術や降雨予測(情報を読む力)等の技術の向上が望まれます。 これまで優秀な人材を計画部門に配置してきているが、今後は管理部門にこの人材を配置し、洪水時の危機管理として高度な河川管理を行うべきと考えます。			

(別添：意見提出様式)

『利根川・江戸川において今後20～30年間で目指す安全の水準についての考え方「利根川・江戸川河川整備計画」における治水対策に係る目標流量について』に関する意見

①氏名			
②住所	(都県名) 群馬県	(市区町村名) 伊勢崎市	
③電話番号又はメールアドレス			
④年代	20歳未満・20代・30代・40代・50代・60歳以上	⑤性別	男性・女性
⑥ご意見 (意見ごとにできるだけ200字以内で記載して下さい)			
目標流量を設定すること自体反対です。ハツ場ダム検証で治水目標流量$17,000\text{m}^3/\text{秒}$は現実離れした数字です。1998年の($10,000\text{m}^3/\text{秒}$)最大流量から見ても$12,000\text{m}^3/\text{秒}$～$13,000\text{m}^3/\text{秒}$を治水目標流量にすべきです。治水安全度$1/70$～$1/80$の流量は科学的に計算されれば$17,000\text{m}^3/\text{秒}$の流量よりずっと小さい数字です。ハツ場ダム計画を正当化する以外の何ものでもありません。ハツ場ダム事業は、始めに「ダムありき」という必要のないダム事業へ執着している関東地方整備局に対して強く抗議します。利根川においてハツ場ダム計画を、利根川河川整備計画に組み込むために、ハツ場ダムの過大な治水効果を正当化しています。学識経験者、関係各都県も原子力村とそっくりな2つです。マスコミの御用学者も分かっている人の間では全く信用されていません。過大な目標流量を設定して過大な河川施設を進める関東地方整備局の考えでは、利根川流域住民の氾濫の危険状態から守ってやることはできません。			

(別添：意見提出様式)

『利根川・江戸川において今後20～30年間で目指す安全の水準についての考え方―利根川・江戸川河川整備計画』における治水対策に係る目標流量について―』に関する意見

①氏名			
②住所	(都道府県) 千葉県	(市区町村名) 我孫子市	
③電話番号またはメールアドレス			
④年代	20歳未満・20代・30代・40代・50代・60歳以上	⑤性別	男性 女性
⑥意見 下記のとおり 目標水量並びに関連する河川行政に対する意見			
①実績洪水流量を目標流量とすべきであると考えます 治水安全度 1/70～1/80 を採用し、目標流量を 17,000 m³/s にならしてありますが、現実から遊離したものと思ひますし、科学的な根拠・検証に耐えられるか大きな疑問を持っております。洪水流出計算法によると過大な洪水量が求められる傾向があるとも考えております。利根川の場合は戦争直後で森林が荒廃していた昭和20年代前半を除いて、最近60年間の最大洪水実績流量を国交省が過去・歴史的に行なつて来たように採用すべきです。その最大流量は1998年の約10,000 m³/s ですから、それに余裕をみた12,000～13,000 m³/s を治水目標流量とするのが正しいと考えております。 この目標を超えた想定外の洪水への対応策は最小の費用で最大の効果が出る方法で対処すべきです。 ②利根川で現在至急に必要とされている治水対策について ●脆弱な堤防の強化対策→国土交通省の調査により、利根川及び江戸川の本川・支流では、洪水の水位上昇時に滑り破壊やパイピング破壊を起こして破堤する危険性がある脆弱な堤防が各所にあることが明らかにされています。その調査によれば破堤の危険性がある区間の割合は利根川 62% 江戸川 60% に及んでいます。もし破堤すれば、大きな被害をもたらすので、脆弱な堤防の強化工事を早急に進めなければなりません。 ●ゲリラ豪雨による内水氾濫への対策 平成23年9月に群馬県南部で記録的な大雨があり、伊勢崎市等で大きな被害が出ました、この時、利根川やその支川からの越流はなく、ゲリラ豪雨が引き起こした内水氾濫(小河川の氾濫)によるものでした。近年はこのような豪雨が利根川流域などでも起きるようになったと言われております。雨水浸透施設の設置、排水機場の強化など、内水氾濫対策の実施が急務になっています。 ●江戸川分派地点における、利根川本川への洪水分派量の適正化・河床低下対策 利根川の治水計画が平成十八年に変更された。この計画では江戸川への分派率が40%に引き上げられている。しかし、現実の大洪水における、江戸川への分派率は20%～25%程度であるとされている、この原因は利根川本川の河床低下が進んでいることにあるとされておる。 「利根百年史」によると、分派地点の江戸川側には床固工が設置されているが、利根川本川には何らの構造物もないと思う、利根川本川にも江戸川同様に簡略な床固工の設置等により利根川本川への洪水量の適正な分派と河床低下防止を図るべきと考えております。			

③想定を超える洪水が来ても壊滅的な被害を受けないための対策について

●長い歴史を考えた場合、利根川においても想定を超える洪水が発生することは予想できます。従えまして、利根川においても想定を超える大洪水が襲った場合に壊滅的な被害を受けない対策、特に人命救助を第一にして死者を出さない治水対策を同時並行で進める必要があると考えております。

その対策で中心となるのが耐越水堤防への強化です。現在の堤防は計画高水位までの洪水に対しては破堤しないように設計されていますが、堤防を越える洪水に対しては強度が補償されていないと考えられます。壊滅的な洪水被害は堤防が一挙に崩壊したときに生じるので、堤防を越える洪水が来ても、直ちに破堤しない堤防への強化が必要であると考えております。

●耐越水堤防としては最小限の費用で堤防を強化出来る技術を選択しなければなりません。鋼矢板やソイルセメント連続地中壁を堤防の中心に設置するTRD工法等は安価な技術であり、このような技術による堤防強化対策工事を推進することが必要であると考えております。

堤防の強化、耐越水堤防は今後の治水対策の要ですが、それはスーパー堤防や首都圏氾濫区域堤防強化対策事業などの巨大土木事業ではありません。スーパー堤防は1kmの整備費に500億円以上の事業費が必要とも言われており、多額の事業費が必要であり、「点」の整備しかできませんので、治水対策としては現実的ではありません。

首都圏氾濫区域堤防強化対策事業は利根川・江戸川の右岸堤防（埼玉県側）を大きく拡幅する事業であると聞いておりますが、この事業は堤防の裾野を広げるために、1200戸以上の家屋の移転が必要となると言われ、完成までに非常に長い年月を要し、事業費（現事業費約1,700億円）も大きく膨れ上がることが予想されます。人命を守ることを目的とする治水対策は、最小の費用で最大の効果があり、長い年月を要しないものが選択されなければならないと考えております。

『利根川・江戸川において今後20～30年間で目指す安全の水準についての考え方―「利根川・江戸川河川整備計画」における治水対策に係る目標流量について―』に関する意見

①氏名			
②住所	(都県名) 埼玉県	(市区町村名) 東松山市	
③電話番号又はメールアドレス			
④年代	20歳未満・20代・30代・40代・50代・○60歳以上	⑤性別	○男性・女性
⑥ご意見 (意見ごとにできるだけ200字以内で記載して下さい) 河道整備には長い年月が必要なのは実態であり、明治以降の近世でも段階的に改修規模の向上を図りながら整備を進めてきた。 一方、異常気象による大出水や大震災等自然災害の規模も大規模化し各地で頻発しているのも事実。 「利根川・江戸川河川整備計画」の目標流量については、既に昭和24年の利根川改修改定計画で17,000 m³/sと策定されている以上、早くこの目標流量を達成する整備を上流、中下流の河川の状況に応じダム、調節地、堤防等の対策を総合的に取組み実施すべきである。 整備計画の水準は、当然、人口・資産が集積した首都圏を貫流し、氾濫原の被害ポテンシャルも高いと想定されることから他の河川より相対的に高い安全度の水準1/70～1/80(年超過確率)とすべきである。			

「利根川・江戸川河川整備計画」事務局 御中

Fax. 宛先 048-600-1436

『利根川・江戸川において今後20～30年間で目指す安全の水準についての考え方ー「利根川・江戸川河川整備計画」における治水対策に係る目標流量についてー』に関する意見

①氏名			
②住所	(都県名) 東京都	(市区町村名) 練馬区	
③電話番号又はメールアドレス			
④年代	20歳未満・20代・30代・40代・50代・60歳以上	⑤性別	男性・女性
⑥ご意見 (意見ごとにできるだけ200字以内で記載して下さい)			
1. 河川整備計画全体の案に対して意見を募集すべきです。 1/70～1/80とか17000㎡とか、洪水の確率や目標流量を流域住民や一般市民に問うやり方に反対です。普段このような数値に触れたことのない人々は洪水の確率は低いほど良いし、耐えられる流量は大きいほど良いと答えざるを得ないからです。相当な大雨の際に洪水が何処でどのように起きうるのか、それぞれにどのような対策が考えられるのかを、費用効果や補修、維持費と共に明らかにすべきです。 2. 自然災害に対してダムなどの巨大工事だけで防ぎきれるものでなく、きめ細かな、住民を巻き込んだ計画であるべきです。民間の知恵にもっと学ぶ河川計画を立案して頂きたいです。 難解な数値をいきなり出し煙に巻かれる感じがします。 安全神話を演出して国民はもとより世界中に恥をさらし、子孫に巨大な負の遺産を残した「原子力村」の例をまねていただきたくないのです。誰にでもわかる問いかけにして欲しいのです。			

(別添：意見提出様式)

『利根川・江戸川において今後20～30年間で目指す安全の水準についての考え方―「利根川・江戸川河川整備計画」における治水対策に係る目標流量について―』に関する意見

①氏名			
②住所	(都県名) 東京都新宿区	(市区町村名) [redacted]	
③電話番号又はメールアドレス	[redacted]		
④年代	20歳未満・20代・30代・40代・50代・60歳以上	⑤性別	男性・女性
⑥ご意見 (意見ごとにできるだけ200字以内で記載して下さい)			
巨額の費用を投じてのダム建設は絶対やめるべきです。 利根川流域の市民の安全対策は最小限の費用でできる堤防の補強です。 一刻も早く強化工事をするべきです。			

『利根川・江戸川において今後20～30年間で目指す安全の水準についての考え方ー「利根川・江戸川河川整備計画」における治水対策に係る目標流量についてー』に関する意見

①□ 氏名	■■■■■		
②住所	(都県名) 愛知県	(市区町村名) 春日井市	■■■■■
③電話番号又はメールアドレス	■■■■■		
④年代	60歳以上	⑤性別	男性
⑥ご意見 (意見ごとにできるだけ200字以内で記載して下さい) ダム建築に依存する洪水予防策は、大洪水のときには大量の土砂や流木が流入し、サイトの崩壊防止のための放水で下流域の氾濫を誘発することはあっても、基本的に洪水を防ぐことは出来ず、ダムの建設には賛成出来ません。国交省河川局の流量計算は、今までの推移から見ても、必要な数値に帳尻を合わせたもので、信頼は出来ません。たとえ、その計算があっていたとしても、ダムや堤防だけで、洪水は防げません。茨城県取手市に居住していたときに目にしたのですが、河川敷ゴルフ場に溢水しないよう遊水池をせばめる堤防工事をしていました。洪水の危険性を高める工事を許し、一方では膨大な予算を必要とする土木工事が必要だと唱え、破綻寸前の国家財政をさらに悪化させる愚行には断じて反対します。関係各位には目を覚まして頂きたいとおもいます。以上			

『利根川・江戸川において今後20～30年間で目指す安全の水準についての考え方 - 「利根川・江戸川河川整備計画」における治水対策に係る目標流量について - 』に関する意見

- ①氏名 [REDACTED]
 ②住所 東京都三鷹市 [REDACTED]
 ③電話番号 [REDACTED]
 ④年代 60歳以上 ⑤性別 男性⑥ご意見

意見

1、今回のパブリックコメントの在り方についてまず問題がありその点を指摘します。利根川の河川整備計画については過去に一定の作業を行った経過があるようです。その経過・内容の説明もなく今回のような河川整備計画の一部分のみについて意見をもとめる事は適切ではありません。

河川法の趣旨に基づき支川も含めた利根川流域全体の河川管理の在り方について市民参加を保証し、流域住民全体のコンセンサスを得られるような丁寧な整備計画策定のプロセスの中でパブリックコメントを改めて行う事を求めます。その中では当然事業規模、予算、財源等も明らかにして流域住民の意見を問うべきです。

2、目標流量17000トンは過大である。

これまでの整備計画検討の中での目標流量は、1/50の15000トンだったはずです。どのような経過でこれが変更された案になっているのかあきらかにすべきです。過去の洪水を見ても60年間で10000トンを超えた例はありません。その1.7倍もの数値を目標流量にするのは過大すぎます。過大な数値を設定すれば一見安全度が上がり、良いことのように見えますが、必要のないムダで過大・実現不可能な河川整備計画となりムダな税金が使い続けられることとなります。

利根川には堤防強化や内水氾濫対策等の目標流量数値だけではない多くの検討課題があるはずです。河川整備全体の姿を再検討するなかから適切な目標流量を策定すべきです。

『利根川・江戸川において今後20～30年間で目指す安全の水準についての考え方ー「利根川・江戸川河川整備計画」における治水対策に係る目標流量についてー』に関する意見

①氏名			
②住所	(都県名) 東京都	(市区町村名) 国立市	
③電話番号又はメールアドレス			
④年代	60歳以上	⑤性別	男性・
6 利根川は、複雑な地勢、社会構造をなしているが、河川の治水安全性の考察には、流域全体での科学的、総合的研究（たとえば、自然系と生態系、社会系など）が必要である。 7 例えば、「緑のダムの機能」（中根周歩）は、参照されるべきである。すなわち、流域の治水機能の変遷と貯水能、浸透能は、地域別、科学的に研究されるべきだ。森林整備によるピーク流量低減である。（吉野川流域ビジョン21委員会）。又、利根川に鑑いては、関論文《社会的共通資本》所収を参照されたい。 8 パブリックコメントのあり方については、「昭島市水と緑の基本計画」を参照されたい。 9 河川整備計画については、「多摩川水系河川整備計画作成プロセスに見る社会空間形成における河川の可能性」（六宮、土肥ら）を検証されたい。 10 住民参加論については、「日本における環境保護・再生と住民参加～河川をめぐる事例を中心として」磯野弥生を点検されたい。 11 多摩川の河川整備計画の遺産「協働推進」のさまざまな事業に学びたい。行政、住民、科学者などの円卓には、環境アセスメントの対話と流儀に学びたい。 12 いずれにしろ、河川整備には、流域住民の参加、意見の反映、が基本であるばかりでなく科学的、合理的判断、選択のために、情報の公開、科学者など異質な議論の参加と公開、第三者機関の冷静な研究と判断が必要である。			

『利根川・江戸川において今後20～30年間で目指す安全の水準についての考え方―「利根川・江戸川河川整備計画」における治水対策に係る目標流量について―』に関する意見

利根川流域市民委員会

共同代表

■■■■ (利根川江戸川流域ネットワーク)

■■■■ (水源開発問題全国連絡会)

■■■■ (霞ヶ浦導水事業を考える県民会議)

事務局 ■■■■ 東京都小平市

TEL&FAX ■■■■ ■■■■

① 治水安全度だけを切り離して意見募集を行うのは詐術というべきやり方であるから、取りやめるべきである。

今回のパブコメで国交省は何を得ようとしているのか。このパブコメで今回のような国交省の聞き方では、多くの人は「人口・資産が高度に集積している利根川・江戸川では治水安全度を全国の他の河川より高くして 1/70～1/80 にするのは当然だ。」と思ってしまうであろう。むしろ、治水安全度をもっと高くすべきだと思う人もいるであろう。治水安全度だけを切り離して聞けば、一般には治水安全度は高い方がベターだと思うであろうから、この意見募集の結果は目に見えている。

② かくして、パブコメで治水安全度 1/70～1/80 に多くの賛意が得られれば、どうなるのか。今回のパブコメ資料に 1/70～1/80 に相当する治水目標流量（八斗島地点）は 17,000 m³/s と書かれているから、国交省は 17,000 m³/s も賛意が得られたとして、次は 17,000 m³/s を前提としたハッ場ダムなど、国交省が考える大規模河川事業も実質的に容認されたものとして、前面に打ち出してくるに違いない。

治水安全度 1/70～1/80 への賛意が治水目標流量 17,000 m³/s へ、さらに、ハッ場ダムなど、国交省が考える大規模河川事業につながるようになっていくのが今回のパブコメのカラクリである。

③ 国交省は、治水安全度 1/70～1/80 は治水目標流量 17,000 m³/s に相当するとしているが、これは過大な流量が算出される洪水流出計算モデル（貯留関数法）と科学性が疑われている総合確率法で求めたものであり、実際にこの安全度に相当する流量はもっと小さな流量である。

④ 今回のパブコメの付属資料は専門的すぎて、一般の人にはとても読みこなせるものではない。流域住民が治水安全度の意味もよく理解しないまま、「安全な方がいい」と答えるしかないように誘導する仕掛けとなっている。治水安全度は高い方がよいと考える一般の心理を利用して、ハ

ッ場ダムなどの大規模河川事業にゴーサインが出るように持っていこうという今回のパブコメは、まさしく詐術というべきやり方であるから、取りやめるべきである。

⑤ 治水安全度ではなく、想定外の洪水が来ても、壊滅的な被害を受けないようにすることを河川整備計画の目標とすべきである。

治水安全度を決め、それを達成するように、ダム建設、河川改修等の河川整備の内容を定めるという従来の河川整備計画の策定方法で利根川流域住民の安全を本当に守ることができるのであろうか。治水安全度を先に決める策定方法は、その治水安全度に見合う洪水までは安全を保証するが、それを越えた洪水が来れば、アウトになるという考え方である。

⑥ 河川整備計画による治水安全度の保証は実際には机上のものにすぎないが、そのことはさておき、去年の東日本大震災を踏まえれば、治水安全度で想定した洪水を超える未曾有の洪水が来る可能性は皆無ではない。その時に、壊滅的な被害を受けないようにするには、どのような河川整備を進めなければならないのか、そのことが東日本大震災の経験を経て取り組まなければならない最大の課題であるはずである。

⑦ 未曾有の洪水が来た時、ダムは（もともとさほど役立つものではないが）満杯になって洪水調節機能を失う。堤防は計画高水位の洪水までに対してしか強度が保証されていないから、破堤するかもしれない。一挙に破堤すれば、流域住民の多くの生命が失われてしまうことになる。そのようにならないようにするために、越水しても簡単には破堤することがない堤防への強化を図り、同時に避難を速やかに行える避難体制を確立することが必要である。利根川水系河川整備計画は未曾有の洪水の来襲に対応できるように策定されなければならない。

⑧ 新規の社会資本投資が次第に厳しくなる時代において利根川では流域住民の安全を極力早く確保できる治水対策を厳選することが必要である。

日本は新規の社会資本投資が次第に厳しくなる時代になりつつある。平成21年度国土交通白書でも、「これまで我が国で蓄積されてきた社会資本ストックは、高度経済成長期に集中的に整備されており、今後老朽化は急速に進む」として既設社会資本の更新と維持管理費が急増していくので、新規の社会資本投資が先細りせざるをえないとの警告が出されている。公共事業がおかれているこの現実を踏まえれば、国交省が目論む利根川水系河川整備計画のように、大規模河川事業を中心に巨額の河川予算を毎年、利根川に注ぎ込み続けることはもはや不可能である。

⑨ 流域住民の安全を確保するための喫緊の対策を厳選して、そこに河川予算を集中的に投ずるようになしなければならない。現在のような大規模河川事業優先の河川予算の使い方を続ければ、いずれ河川予算は底を突き、安全確保が急がれているところはいつまで経っても改善されず、氾濫の危険性がある状態が半永久的に放置されてしまうことになる。

⑩ 昨年９月上旬の台風１２号では伊勢崎市を中心に広い範囲で内水氾濫による浸水被害があった。最近頻発するゲリラ豪雨による内水氾濫への対策が急務になっている。また、国交省の調査により、利根川及び江戸川の本川・支川では洪水の水位上昇時にすべり破壊やパイピング破壊を起こして破堤する危険性がある脆弱な堤防が各所にあり、強化対策が必要な区間の割合は６割にも及んでいる。堤防の強化対策も急がれている。このように流域住民の安全を守るための喫緊の対策を厳選することが利根川水系河川整備計画の策定に課せられた課題である。

⑪ 利根川流域の住民の安全を守るために何が本当に必要なかを十分に議論する場を設けるべきである。

利根川水系河川整備計画は以上述べたことを踏まえて、利根川流域住民の安全を真に守ることができるよう策定されなければならない。そのためには、利根川流域の住民の安全を守るために何が本当に必要なか、利根川の治水のあり方、川のあり方について国交省は流域住民と十分に議論する場を設けることが必要である。流域住民の意見を反映できるように、流域住民とともに河川整備計画を策定していくことは１９９７年河川法改正の本旨であったはずで、そのことは当時の国会での質疑で河川局長が言明していることである。

⑫ 流域住民とともに河川整備計画づくりを進めた例は数多くあるが、利根川と同じ関東地方整備局の管轄内では多摩川がある。多摩川では河川法が改正されて直ちに整備計画策定作業が始まった。改正河川法の意気込みを引き継ぎ、流域住民との協働作業を基軸に策定作業が進められた。京浜河川事務所と流域住民による堤防等の河道視察、流域セミナーという名の公開討論会が積み重ねられた。それは多摩川を愛する人たちによる「自分達の川造り」であった。３年をかけた２０００年に多摩川水系河川整備計画は完成した。多摩川の実施例に倣って、利根川でも流域住民との協働作業による整備計画づくりに努めるべきである。

⑬ 先に述べたように、治水安全度を切り離してパブコメを行い、それによってハツ場ダムなど、大規模河川事業推進への道筋をつくらうという国交省のやり方では、私たち流域住民の真の安全確保はいつまでたっても達成することができない。

国交省は１９９７年河川法改正の本旨に立ち返って、利根川水系河川整備計画を流域住民とともに策定することが求められている。

利根川・江戸川流域ネットワーク
水源開発問題全国連絡会
利根川の水と緑を守る取手連絡会
霞ヶ浦導水事業を考える県民会議
高崎の水を考える会
ハッ場あしたの会
ハッ場ダムをストップさせる市民連絡会
ハッ場ダムをストップさせる群馬の会
ハッ場ダムをストップさせる千葉の会
ハッ場ダムをストップさせる埼玉の会
ハッ場ダムをストップさせる茨城の会
ハッ場ダムをストップさせる東京の会
ムダなダムをストップさせる栃木の会
渡良瀬遊水池を守る利根川流域住民協議会
首都圏のダム問題を考える市民と議員の会
霞ヶ浦・北浦をよくする市民連絡会議
思川開発事業を考える流域の会
ダム反対鹿沼市民協議会
栃木の水を守る連絡協議会
千葉県自然保護連合
千葉の干潟を守る会
藤川をきれいにする会
市川緑の市民フォーラム
耕さない田んぼの会
東京市民オンブズマン
溪流保護ネットワーク・砂防ダムを考える
全水道関東地方本部
水道事業を考える土浦市民の会
スーパー堤防問題を考える協議会
スーパー堤防・街づくりを考える会
希望社会研究所
那珂川ウォーターネットワーク鶴亀隊
アサザ基金
STOP ハッ場ダム・市民ネット

『利根川・江戸川において今後20～30年間で目指す安全の水準についての考え方ー「利根川・江戸川河川整備計画」における治水対策に係る目標流量についてー』に関する意見

①氏名	[REDACTED]		
②住所	(都県名) 東京都	(市区町村名) 小平市	
③電話番号又はメールアドレス	[REDACTED]		
④年代	20歳未満・20代・30代・40代・50代・60歳以上	⑤性別	男性・女性
⑥ご意見 (意見ごとにできるだけ200字以内で記載して下さい)			
1 利根川は重要な河川だから、高い安全度がよい、と言われれば、そうだな、安全な方がいいな、と考えて、「高い治水安全度をめざすことに賛成です」と書いてしまいそうです。その説明としてつけられている資料が、とても一般の人には読みこなせないものですから、よけいそう答えるしかありません。 しかし、これだけの安全度をめざすには、これだけのダムや施設の建設、堤防工事が必要で、だからこれだけの費用と時間がかかります、という説明がなければ、本来妥当な安全度など選べないはずです。つまり、河川整備計画の全体像を示された中で、初めて治水安全度や目標流量も検討できるはずですが、治水安全度だけを切り離して意見募集する今回のやり方は、自動的にハッ場ダムを始めとする大規模事業が必要となるような「高い安全度がよい」という意見を誘導尋問する狙いが見え見えの、きわめて不適切なものです。治水安全度を先に決めるような河川整備計画の策定方法は直ちに撤回して下さい。 2 一体、河川整備計画策定において、治水安全度や目標流量だけを切り離して先に決めるようなやり方を、これまで国交省としてやったことがあるのでしょうか？ ないのだとすれば、なぜ利根川ではそうするのでしょうか？ 6月7日に開かれた民主党議連のヒアリングでは、[REDACTED]が、「(ハッ場ダム本体工事再開の条件を定めた)官房長官裁定に目標流量が書いてあるから」と説明していました。しかし、裁定の1番は次のようになっています。 「現在作業中の利根川水系に関わる「河川整備計画」を早急に策定し、これに基づき基準点(八斗島)における「河川整備計画相当目標量」を検証する。」 先に目標流量を決めるなどとは、どこにも書いてありません。むしろ逆に読めます。少なくとも、この裁定を根拠に、「先に目標流量を決めることになった」とするのは、曲解以外の何ものでもありません。治水安全度・目標流量を先に決める根拠が欺瞞に満ちたものである以上、このパブコメ募集を直ちに撤回し、河川整備計画策定を一からやり直して下さい。 3 そもそも、河川整備計画について意見を聞く有識者会議の体制も全く不明のままスタートしていることが異常です。前回の策定時から利根川・江戸川有識者会議の[REDACTED]は、建設の是非が議論の的となっているハッ場ダムの強力な推進論者です。他の委員も多くがダム賛成派で占められています。このような偏った人選の「委員会」が、国政のチェック機能を果たせず、			

取り返しのつかない災害を招いてしまうことを、私たちは去年の原発事故でいやという程学んだはずです。まずは、この有識者会議の人選からやり直し、これまでの国交省の事業に批判的な専門家やNGO代表も加え、広く流域住民の意見を反映できるような体制を作るところから出直して下さい。パブコメの取り方も、有識者会議の意見を聞いてから決めるべきです。少なくとも、前回の策定時には、計画の策定方法についても、有識者会議で出た意見が反映されていました。今回のように、独断でパブコメを始めるような国交省の姿勢は、前回の策定時から大きく後退し、「地域の意見の反映」を謳う河川法改正の趣旨から限りなく遠ざかっています。まずは今回のパブコメを撤回し、有識者会議の人選からやり直し、新たにスタートする有識者会議で、河川整備計画策定の方法の議論から始めて下さい。

『利根川・江戸川において今後20～30年間で目指す安全の水準についての考え方―「利根川・江戸川河川整備計画」における治水対策に係る目標流量について―』に関する意見

①氏名	[REDACTED]		
②住所	(都県名) 千葉県	(市区町村名) 千葉市花見川区	
③電話番号又はメールアドレス	[REDACTED]		
④年代	20歳未満・20代・30代・40代・50代・ ☒ 60歳以上	⑤性別	☒ 男性・女性
⑥ご意見 (意見ごとにできるだけ200字以内で記載して下さい) 別紙 添付			

別紙

「利根川・江戸川において今後20～30年間で目指す安全の水準についての考え方」に関する意見

氏名



国土交通省は今回のパブコメの目的として、その要旨に「我が国の社会経済活動の中枢を担う首都圏を流れる利根川・江戸川の氾濫域には、人口・資産が高度に集積しています。」とし、具体的な考え方、には「・・・利根川・江戸川河川整備計画」を定めようとしており、その目指す安全の水準を設定することとしています。」とし、さらには、「このたび、「利根川・江戸川河川整備計画」の策定に当たって、あらためて、利根川・江戸川において今後20～30年間で目指す安全の水準について関東地方整備局の考え方をお示しします。」とし、○ここで、安全の水準は・・・洪水が・・・当然のことながら本年発生する可能性もあります。」としている。

また「2. 現在の利根川・江戸川の状況と安全の水準」では、○・・・洪水を「流す」、「貯める」、などの施設を整備し・・・「あふれる」ことに対応して水防活動等も実施してきました。現在の利根川の・・・安全の水準は・・・十分ではないと考えています。」と述べている。

洪水が、当然のことながら本年発生する可能性がある、ことに対し、また安全の水準が十分ではないことを認識しながら、この計画では、国民の生命・財産をどう対応して守ろうとしているのか、読み取ることができない。

この計画では、利根川流域で氾濫の危険性のあるところが放置されてしまうことが懸念される。したがって、利根川水系河川

整備計画の策定では、何よりもまず、「利根川流域の住民の安全を守るために今、何が必要とされているか」の議論が必要で、治水目標流量 17,000 m³/秒や最大流量の推定値を云々することは、無用な議論である。

利根川で必要な治水対策を以下に述べる。

1) 脆弱な堤防の強化対策

堤防の現状はあらゆる箇所で、洪水の水位上昇時にすべり破壊やパイピング破壊を起こして破堤する危険性があるといわれ、国土交通省によれば、破堤の危険性がある区間の割合は利根川 62%、江戸川 60%に及んでいる。脆弱な堤防の強化工事を早急に進めなければならない。

2) 内水氾濫への対策

近年、ゲリラ豪雨による内水氾濫（小河川の氾濫を含む）が利根川流域などでも起きるようになった。昨年 9 月上旬の台風 12 号で群馬県南部で記録的な大雨があり、伊勢崎市等で床上浸水 14 棟、床下浸水 89 棟の大きな被害を受けたが、利根川やその支川からの越流はなく、内水氾濫によるものと報道されている。これには雨水浸透施設の設置、排水機場の強化など、内水氾濫対策の実施が急務である。

3) 壊滅的な被害を受けないための対策

「安全の水準は・・十分ではない」とする治水計画でいかに国民の生命財産を守るか、計画での想定を超える洪水が襲った場合に壊滅的な被害を受けない治水対策を同時に進める必要がある。

堤防の現状は、計画高水位までの洪水に対しては破堤しないように設計するものの、計画高水位を超え、堤防を超える洪水に対しては強度が保証されていない。壊滅的な洪水被害は堤防

が一挙に崩壊した時に生じるので、計画高水位や堤防を超える洪水が来ても、直ちに破堤しない堤防（耐越水堤防）への強化が是非とも必要である。

4) 耐越水堤防

巨額な経費を必要とするスーパー堤防は「点」の整備しかできず、治水対策としては非現実的である。

最小の費用で堤防を強化できる手段が必要で、鋼矢板やソイルセメント連続地中壁を堤防中心部に設置するハイブリッド堤防によることが適正である。

まとめ

完成まで非常に長い年月を要し、事業費も巨額な利根川・江戸川の右岸側堤防（埼玉県側）を大きく拡張する事業も計画されているが、1,200戸以上の家屋の移転が必要とされ、事業費も約1,700億円以上が予想されるような計画は誤っている。

国民の生命財産を守ることを目的とする治水対策は、最小の費用で最大の効果があり、早急に完成させ得る計画でなければならない、

「洪水が・・・当然のことながら本年発生する可能性もあります。」と認識されているのだから。